

東京外国語大学 留学生支援の会

No.49
年3回発行

Since 1999

会報

新規ご加入、ご寄付くださった皆様のご協力に御礼申し上げます。
日本に来た多くの留学生は、皆様の支援を必要としています！！

Pick Up
Event 2014

秋期バザー開催決定！バザー用品受付：9月15日(火)～9月28日(月)
ボランティア募集！バザーの人手が足りません。(詳細 22 ページ！)

〒183-8534 東京都府中市朝日町 3-11-1 東京外国語大学留学生課気付 TEL 042-330-5183/5759 FAX 042-330-5189

<http://www.facebook.com/tufs.issa2>

INSIDE

Page 1.	1. 巻頭言
Page 3.	2. ご挨拶
Page 4.	3. 事業報告と事業計画 (案)
	3-1 平成26年度事業報告
	3-2 平成27年度事業計画(案)
	3-3 平成26年度一般会計収支決算・ 平成27年度一般会計予算案
	3-4 平成26年度特別会計報告
Page 9.	4. 活動報告
	4-1 春期バザー報告
	4-2 鎌倉バス旅行
	4-3 工場見学
	4-4 大国魂神社くらやみ祭り
Page 16.	5. 留学生の声
	5-1 京都ホームステイの日々
	5-2 鎌倉バス旅行
	5-3 「ふじのくに留学生ツアー」
Page 21.	6. 奨学生の声
Page 22.	7. これからの活動

FOCUS

1. 巻頭言

留学生どうしの友情

東京外国語大学副学長
斎藤弘子

昨年の夏、横浜で開かれた大きな学会に参加するためにカナダから来日した友人の Gさんと何日かにわたって一緒に過ごした。Gさんはカナダの大学で社会学を教えている研究者で、香港出身の中国人である。

食べ物にはうるさい人で、食事のたびにどんなお店に入るか、お店に入ってから何を注文するか、ああでもないこうでもない長い時間をかけて考えるので、一緒にいる私はなかなか食べられず、おなかがすいて困った。さらに彼女はとても話し好きで、一緒にいる間中、一瞬も止まることなくいろいろなことについてよくしゃべるので、私は面白い話に笑ったり驚いたりして楽しかったが、ちょっぴり疲れもした。しかし、とても個性的な Gさんとは良い友だちで、一週間の滞在のちカナダに帰っていく彼女を見送ったあとは、寂しく感じた。

Gさんと知り合ってもうずいぶん長くなるが、実は彼女は初め私の親友Yさんがカナダに留学したときにルームメイトになった（何人かでひとつのキッチンやバスルームを一緒に使うタイプの学生寮に住んでいた）のをきっかけに仲良くなり、私はずっと後になってYさんを通して知り合ったのだ。

しかし、私の親友Yさんは4年前に病気で亡くなってしまった。昨夏のGさんの来日は、学会に出席するためもあったが、Yさんのお墓参りとYさんのお母様にお目にかかりたいという希望もあったので、私はGさんをお墓とYさんのお母様のところに案内した。

はるばるカナダから来てくれたGさんを、Yさんのお母様はとても喜んで迎えた。娘が一番輝いていたカナダ留学時代を知っているGさんだから、と言って。そう、私もまた、Gさんが話してくれるYさんがカナダにいた頃のいろいろなエピソードに耳を傾けながらYさんの学生時代を想像していた。

GさんとYさんは出身も留学先での研究分野もちがったが、学生寮で一緒になったのをきっかけに、留学から帰っても30年近くずっと友だちだった。そして、30年の間に友人の輪は広がり、私もGさんと知り合ったのだ。

ところで、留学すると、その国の人と友人にならなければ、と焦る人は多いのではないか。言葉を早く身につけるためには現地の、「ネイティブ」の友人を作らなければ、と思うのは自然なことで、そもそも留学とはそのような目的のためにするものだろう。

しかし、留学しても語学学校であったり、外国人向けの言語クラスであったりすれば、そこには教員を除いて現地のクラスメートなどいない。寮に入ると周囲は自分と同じように遠い他国から来た学生ばかりであることが多い。大学の授業に出るようになって、多人数で聞く講義の大教室で知らない人に突然声をかけ「友だちになってください」などと言うわけにはいかないだろう。どうしても、自分と同じ国から来た学生や、異国の地で同じように苦労している外国人どうして助け合

い、友人となっていくことが多いのではないか。私の親友Yさんも、同じアジアから来たGさんとは気が合ったとよく言っていた。

私がイギリスの大学に1年間留学していたときも、寮には日本人の留学生がたくさん住んでいた。ので、食堂で会えば一緒にテーブルで食べるが多かった。大学院の授業は少人数であったものの多くが留学生だったから、授業の合間によく話をするのは韓国や台湾から来た学生やスペインからの留学生だった。

そして、日本に帰ってからは留学先で出会った日本人のネットワークは意外にも密で長く続くもので、友人関係や仕事上の付き合いが今に至るまで続いたりする。留学という共通の目的のもと、同じような苦労や楽しい体験を共有したことが大きいのだ。YさんとGさんも、留学先で知り合ったからこそその関係だったのだろう。

東京外国語大学に留学してきている学生は、ここで4年以上学ぶ学部留学生もいるが、1年未満で出身大学に戻らなければならない交換留学生や、日本国内ではあるが他大学に進学していく国費留学生も大勢いる。特に後者の場合、短い在籍期間が終わりに近づくのに日本人の友人ができないと、焦りを感じる人もいるかもしれない。しかし、何年かあとになって振り返ってみれば、今、毎日一緒にいる留学生の仲間との関係こそがずっと長く続いているかもしれず、日本の思い出の大きな部分を占めることになるかもしれない。

また、本学では、短期留学生が受ける英語による授業を日本人学生も一緒に受けることができた。留学生向けの日本語の授業に日本人の学生が補助的に出席したりする制度があるほか、昨年度には「たふこみゆ」という、多文化交流活動を行う組織も学内にできた。そして、この「留学生支援の会」の活動や年間を通しての様々なイベントにより、留学生と日本人学生が知り合う機会はとても多くなっている。留学生もそうでない学生も、ぜひ学内の多種多様な制度を利用して、互いに知り合う機会を増やしてほしい。

それと同時に、留学生どうしの付き合いを、大切にしてほしい。

2. ご挨拶

東京外国語大学にも“文書館”が！

会長 中嶋 洋子

この5月6日の読売新聞に「歴史のドラマを伝える新施設に」との見出しで、国公立文書館の記事が報道されていました。

政策決定の過程などを後世に伝える公文書は国民共有の財産ですが、これを収集・保存する国公立文書館は、極めて重要な役割を担っているというわけです。

東京外国語大学にも実は文書館があることをご存じでしょうか？

パンフレットによりますと、大学の過去の歴史、現在の教育・研究活動を、未来に伝えるという役割をもっている施設なのです。2014年4月に発足したとのこと、文書館は大学の記録を中心に資料を収集・整理・保存し、情報資源を将来の活動に活かす施設です。

私はその施設を見せていただく機会がありました。それは研究講義棟の2階にあり、施設の中は気温、湿度、紫外線への対応など、保存のための条件が充分整っていてまるで別世界にいることに衝撃さえ覚えました。



実は夫の中嶋嶺雄が生前、東外大百年史の編集に携わったころの膨大な資料や、東外大在任中の諸々の歴史資料がこの文書館に整理・保存されているのです。

とはいえ、119冊に及ぶ著作はまだしも、それにまつわる山のように積まれた関係資料を、選出し、あったはずだと自宅の中を埃まみれ、汗まみれになって探すこともしばしばで、数か月もかかったでしょうか。大仕事でした。

本人がすでにこの世にいないのですから当時の

状況を聞くこともできません。

この作業を終える前は本当にどうなることかと途方にくれました。数十箱の段ボールの箱を2階から階下におろし、大学の倉方慶明さん（文書館の責任者）をはじめ、職員や学生の方々の力を借りて大きなバンに積み込んだ時には心から安堵し開放感を味わいました。（しかし、実は未完成の部分もあるのです。）

さて、パンフレットにも触れられていますが、資料に残された重要な情報も利用されなくてはその意義が失われてしまいます。

東外大図書館の1階で、資料を用いた展示や紹介が常時行われています。どうぞ一度ご覧になってください。文書館の意義が瞬時に理解できると思います。

文書館は、歴史を大切に、未来に活かすといった発想があればこそその施設です。

東京外国語大学には、過去の歴史を大切にする精神が教職員はじめ学生の皆様に強くあるのだと思います。このことに東外大の大きな特長があることは間違いないと思います。

夫の中嶋嶺雄を通して、また留学生支援の会の私の細やかな活動を通して、この東外大の大きな特長を共有できることに誇りを感じ、また、幸せに思っています。

お詫び：会報49号{当号}の発行が事情により遅れましたことをお詫びいたします。



REPORT

3. 事業報告と事業計画(案)

3-1 平成 26 年度事業報告

A. 生活支援事業

1. 給付事業

(1) 奨学金

大学院修士課程 1 名(中国)に 1 年間月額 5 万円を、学部 1 名(シリア)に月額 5 万円を支給しました。

(2) 生活用品・図書を廉価で給付するバザー

1) 春期バザー

平成 26 年 4 月 8 日～9 日

場所 国際交流会館2号館交流ホール
来場留学生約 200 名

2) 秋期バザー

平成 26 年 9 月 30 日～10 月 1 日

場所 国際交流会館 2 号館交流ホール
来場留学生約 200 名

(3) 入院見舞金

入院 5 日以上 of 留学生 2 名に、
見舞金一人 1 万円を贈りました。

(4) 学会へ出席して研究発表する留学生に 旅費補助金

国外開催 1 人 5 万円を 6 名に、
国内開催 1 人 2 万円を 5 名に支給。

2. 貸与事業

緊急貸付金を貸与しました。

「留学生緊急貸付基金」より、授業料納入等
で困窮している留学生に貸与しました。

今期貸与 6 人 600,000 円

返却 16 人 1,270,000 円

基金総額 6,004,561 円

貸付総額 4,631,000 円

平成 27 年度当初貸付可能額 1,373,561 円

3. 相談事業

留学生の住居・学費・引っ越し、アルバイト
等に関する相談に対応しました。

B. 友好親善事業

1. 国際交流事業

1) 「国際交流の夕べ」(留学生交流会)を
大学と共催しました。

平成 26 年 12 月 12 日(金) 大学会館
参加者 留学生 約 200 名
日本人学生 約 50 名
来賓・大学・支援の会等 約 50 名
合計 約 300 名

2) 田沢湖温泉ロッジ交流旅行

留学生課主催の交流旅行に資金等協力。

平成 27 年 2 月 9 日～11 日

参加者 留学生 20 名 留学生課 3 名

2. 会員等の協力による友好事業

(1) ホームステイを受け入れていただきました。

1) ふじのくに留学生支援の会による「ふじ
のくに留学生ツアー」

平成 26 年 8 月 1 日～3 日

静岡県沼津市に留学生合計 18 名

平成 27 年 2 月 22 日～24 日

静岡県沼津市に留学生合計 19 名

2) 会員によるホームステイの受け入れ(39 人)
<内訳>北海道 8 人・新潟県 4 人・長野県 1 人・
群馬県 2 人・千葉県 1 人・東京都 12 人・
茨城県 6 人・大阪府 5 人

(2) 地域の文化行事に参加しました。

武蔵野市ランオンズクラブによる

「日本食文化交流会」

平成 26 年 9 月 27 日 留学生 15 名

C. 日本理解事業

1. 伝統文化の見学

(1) 日本文化の見学

1) 歌舞伎を鑑賞し、懇談茶話会を開きました。

平成 26 年 6 月 8 日(日)

「国立劇場歌舞伎鑑賞教室」

留学生 56 名、日本人学生 14 名、幹事 6 名、
計 76 名

2) 東京下町ツアーを楽しみました。

平成 26 年 12 月 7 日(日)

隅田川クルーズ、浅草散歩、江戸東京博物館
を見学し、ちゃんこ鍋を囲む懇親会を実施。

留学生 38 名、日本人学生 7 名、幹事 8 名、
計 53 名

3) 鎌倉の文化財と自然環境の見学バスツアー。

平成 27 年 3 月 20 日(金)

留学生 35 名、日本人学生 1 名、幹事 5 名、
留学生課 1 名、鎌倉在住会員 4 名、合計 46 名

4) 大国魂神社くらやみ祭りへ参加しました。

平成 26 年 5 月 4 日(日)
留学生 23 名、日本人学生 1 名、幹事 2 名、
合計 26 名

(2) 伝統文化の体験

1) 伝統文化体験教室を大学と共催しました。
平成 26 年 12 月 12 日(金) 学生会館等
振袖着付け、華道、茶道、墨絵、折紙、
和紙人形、囲碁
留学生 150 名

2) 伝統文化指導教室を開催しました。

通年週 1 回
華道、茶道、書道、囲碁
留学生 200 名

3) 日本語広場を開催しました。
講師 3 名、受講者 6 名 (のべ 200 人)

4) 七夕茶会を開きました。
平成 26 年 7 月 1 日(火)
留学生・日本人学生 19 名

(3) 特徴ある企業の見学

新日鉄住金の君津製鉄所を見学しました。
平成 27 年 2 月 26 日(月)
留学生 33 人、日本人学生 7 人、
幹事 3 人、合計 43 人

D. 国際理解事業

(1) 各国文化紹介—お茶とお菓子を楽しむ—

各国の文化を説明してもらいました。

- 1) 第 18 回
平成 26 年 7 月 2 日(水)
メキシコ、インドネシア、ガーナ、
ウガンダ
留学生・日本人学生 約 200 人
- 2) 第 19 回
平成 27 年 1 月 28 日(水)
韓国、タイ、ウズベキスタン
留学生・日本人学生 約 150 人

(2) 国際理解教育へ協力

小・中・高校の国際理解教育の授業へ
留学生を派遣しました。
府中市四谷小学校
第十小学校
川崎市西生田小学校
はるひの中学校
東村山市南台小学校

E. 広報その他の事業

1. 支援の会の「会報」誌を 3 回発行しました。

No. 46 号(平成 26 年 6 月号)、No. 47 号(平成
26 年 11 月号)、No. 48 号(平成 27 年 2 月号)

2. フェイスブックをベースにしたホームページ に行事の記念写真を掲載しました。

<https://www.facebook.com/tufs.issa2>

3. 新入生入学式の際に会員募集の説明を実施。

4. 幹事会を開催しました。

幹事が次のように幹事会を開いて、行事の企画・
運営について相談しました。

平成 26 年 4 月 13 日(土)、5 月 17 日(土)、
6 月 16 日(土)、7 月 12 日(土)、
9 月 27 日(土)、10 月 19 日(日)
11 月 16 日(日)

平成 27 年 1 月 11 日(日)、2 月 15 日(日)、
3 月 22 日(土)

5. 会員数 985 名

(平成 27 年 6 月 25 日現在)

3-2 平成 27 年度事業計画(案)

A. 生活支援事業

1. 給付事業

(1) 留学生支援の会奨学金の支給

(大学への協力)

対象:学部生 1 名・大学院生 2 名 計 3 名

月額:学部生 5 万円、大学院生 8 万円

期間:1 年間

(1) 生活用品・図書のパザー(廉価で給付)

1) 春期パザー

4 月 6 日(月)~7 日(火)

2) 秋期パザー

9 月 29 日(火)~30 日(水)

(2) 入院見舞金

入院 5 日以上に対して 1 人 1 万円

(3) 学会発表者への旅費助成金

国外の学会参加者 5 万円

国内の学会参加者 2 万円、計 50 万円

2. 貸与事業

緊急貸付金

緊急貸付基金より授業料等緊急に必要な経費のために貸与。

3. 相談事業

留学生の住居・学費・法律・引越し・子供の健康等の相談に連絡室にて対応する。

B. 友好親善事業

1. 国際交流事業

「国際交流の夕べ」の開催（大学と共催）

12月中旬予定 留学生全員と一部日本人学生を招待。福引商品の提供。

2. 会員等の協力による友好親善事業

(1) 会員の協力によるホームステイ・ホームビジットの受入れ

(2) 地域の文化的行事への参加

C. 日本理解事業

1. 日本理解事業

(1) 日本文化の見学

1) 歌舞伎鑑賞と茶話会

6月7日（日）

国立劇場「歌舞伎鑑賞教室」・茶話会

2) 東京下町ツアー・江戸東京博物館

見学と相撲ちゃんこ鍋会食

11月または12月を予定

3) 鎌倉文化遺産と自然の見学

(日帰りバス旅行)

平成28年3月予定

4) 大国魂神社くらやみ祭りに参加

5月4日（月）

(2) 日本文化の体験

1) 日本語広場の開設

週2回

2) 各種日本文化教室の開設（毎週）

華道・茶道・書道・囲碁

3) 七夕茶会を開催

7月開催

4) 「日本文化体験教室」の開設

(大学と共催) 12月中旬開催

(3) 特徴ある企業の見学

東京近辺に所在する企業を見学

D. 国際理解事業

(1) 各国文化紹介—お茶とお菓子を楽しむ—

留学生同士の交流会、日本人学生との交流会の開催を年2回、各回3か国

(2) 国際理解教育授業への留学生の派遣

地元の小学校・中学校・高等学校からの要請を受けて、留学生を派遣。

E. 広報その他の事業

1. 支援の会の「会報」誌の刊行

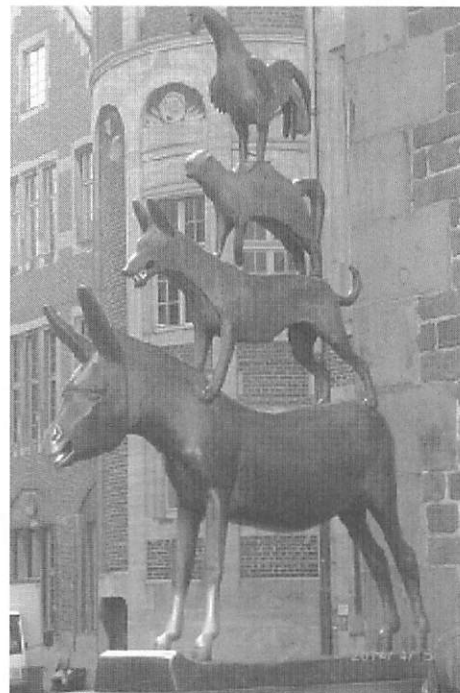
No. 49号（平成27年6月号）、No. 50号（平成27年11月号）、No. 51号（平成28年2月号）

2. ホームページ（フェイスブック）の運営

3. 会員募集のための諸活動

大学新入生入学式の際など。

4. 幹事会の開催（毎月）



3-3 資料：会計報告と予算案

平成26年度 一般会計収支決算

東京外国語大学留学生支援の会 平成26年度 一般会計収支決算 平成26年4月1日～平成27年3月31日

《収入の部》

科目	項目	26年度予算額	26年度決算額	
前年度繰越金		5,137,168	5,137,168	
会費	一般会員	4,260,000	3,921,000	3,000円×371名=1,113,000 12,000円×234名=2,808,000
	協賛会員	120,000	60,000	20,000円×3名
寄付	一般	400,000	426,820	
	緊急貸付基金	200,000	200,000	
その他	バザー等	400,000	389,236	バザー収益金・行事参加費
	利息	500	768	
収入の部合計(A)		10,517,668	10,134,892	

《支出の部》

科目	項目	26年度予算額	26年度決算額	摘要
活動費 (友好親善事業・相互理解事業)	国際交流行事共催費	470,000	449,908	伝統文化体験費・交遊会費(大学との共催)
	史跡見学費	250,000	293,622	鎌倉見学
	日本文化見学費	500,000	628,321	歌舞伎見学・東京下町体験・ふじの国・くらやみ祭り
	日本先端技術見学費	300,000	196,862	先端技術工場見学
	日本文化体験費	300,000	232,587	華道・書道・茶道
	日本人学生との交流会	200,000	208,463	茶・菓子等
	その他の交流活動費	100,000	53,030	国際理解教育交通費・謝金
活動費 (生活支援事業)	留学生支援の会奨学金	1,200,000	1,200,000	奨学金2名
	教育研究支援金	500,000	400,000	学会発表出席旅費補助金
	連絡室協力謝金	660,000	595,000	留学生連絡室協力謝金
	入院見舞金	70,000	20,000	入院見舞金
活動費 (広報普及事業)	通信費	300,000	313,879	会報発送費等
	印刷費	270,000	239,068	会報印刷費等
	活動費小計(a)	5,120,000	4,830,740	
運営費	消耗品費	20,000	10,903	プリンターインク代
	備品費	30,000	2,138	パソコンソフト代
	連絡室運営費	35,000	34,216	連絡室用携帯電話使用料
	郵便振替手数料	60,000	69,320	郵便振替手数料
	その他	10,000	139,920	留学生課田沢湖ツアー補助等
	運営費小計(b)	155,000	256,497	
予備費	(c)	100,000	-	
繰入金	緊急貸付基金(d)	300,000	386,000	寄付200,000・バザー収益
支出の部の合計(B)	(a)+(b)+(c)+(d)	5,675,000	5,473,237	
次年度繰越金	(A)-(B)	4,842,668	4,661,755	

上記の通り相違ございません。

平成27年5月26日

監事 川口 健一 (M12)

平成 26 年度 一般会計予算案

東京外国語大学留学生支援の会 平成 27 年度一般会計予算(案)

《収入の部》

科目	項目	27 年度予算額	備考
前年度繰越金		4,661,755	
会費	一般会員	3,459,000	3,000 円×245 名 12,000 円×227 名
	協賛会員	60,000	20,000 円×3 名
寄付	一般	400,000	
	緊急貸付基金	-	
その他	バザー等	500,000	バザー収益・国際交流のタペカンパ・行事参加費
	利息	500	受取利息
収入の部合計(A)		9,081,255	

《支出の部》

科目	項目	27 年度予算額	摘要
活動費 (友好親善事業・ 相互理解事業)	国際交流行事共催費	450,000	伝統文化体験費・交流会費(大学との共催)
	史跡見学費	300,000	鎌倉見学
	日本文化見学費	600,000	歌舞伎見学・東京下町体験ツアー・ふじの国ツアー
	日本先端技術見学費	200,000	先端技術工場見学
	日本文化体験費	250,000	華道・書道・茶道・日本語広場
	日本人学生との交流会費	200,000	茶・菓子・昼食等
	その他の交流活動費	50,000	国際理解教育交通費・謝金
活動費 (生活支援事業)	留学生支援の会奨学金	2,520,000	奨学金 3 名
	教育研究支援金	500,000	学会発表出席旅費補助金
	連絡室協力謝金	600,000	留学生連絡室協力謝金
	入院見舞金	50,000	入院見舞金
活動費 (広報普及事業)	通信費	280,000	会報発送費等
	印刷費	250,000	会報印刷費等
	活動費小計(a)	6,250,000	
運営費	消耗品費	20,000	プリンターインク代・コピー用紙代
	備品費	20,000	
	連絡室運営費	35,000	連絡室用携帯電話使用料
	郵便振替手数料	50,000	
	その他	10,000	
	運営費小計(b)	135,000	
予備費	(c)	100,000	
繰入金	緊急貸付基金(d)	200,000	バザー収益
支出の部の合計(B)	(a)+(b)+(c)+(d)	6,685,000	
次年度繰越金	(A)-(B)	2,396,255	

3-4 平成 26 年度特別会計

(緊急貸付基金)報告

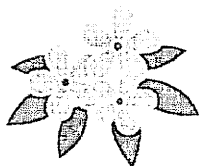
(平成 26 年 4 月～平成 27 年 3 月)単位:円

1	前年度期末基金総額	: 5,518,561
2	バザー収益金 + 寄付金	: 386,000
3	当期基金総額 (1 + 2)	: 5,904,561
4	前期末貸付残額	: 4,838,400
5	今季貸付額 (授業料 2 件、生活費 2 件、帰国旅費 2 件)	: 600,000
6	今期返済(回収)額	: 1,270,000
7	期末貸付残額 (4+5-6)	: 4,168,400
8	貸付可能繰越金(3-7)	: 1,736,161
9	次年度期初基金総額	: 5,904,561

今年度は、緊急貸し付け基金を開始してから 14 年目になります。開始時は、160 万円だった基金総額が、現在 590 万円強になりました。その間に、460 名以上の留学生が学費、家賃、生活費などの理由でこの基金を利用し、留学生生活を続けてきました。これもひとえに会員の皆様のご支援のおかげと感謝しております。

今年度は、政府からの予算が増えて、授業料免除申請者のほとんどが全額免除者となったため貸付件数が減り、同時に返済額も増え、今期末の貸し付け残額が前年度より 67 万円ほど増えました。一方、母国の政治、経済状況の悪化や自然災害のため、仕送りが止まったり、家族の状況の変化で帰国、休学することになったり、長期に返済できない留学生もまだ多くいます。しかし、現在は返済不能けれども、まだ連絡可能な留学生の将来の可能性に期して、今期は損金処理をいたしませんでした。

(貸付担当幹事 梅田由美子)



REPORT

4. 活動報告

4-1 [春期バザー]

2015 年春期バザーへのご協力
ありがとうございました

留学生支援の会

新しい学期が始まり、新入生たちが期待に満ちた楽しそうにキャンパスを歩き来しています。皆様、お変わりなくお過ごしのことと思います。

今年から外大も 4 学期制になり授業の始まりが早くなったため、バザーも例年より時期を早めて、4 月 6 日、7 日の 2 日間、交流会館 2 号館の交流室で開催しました。

今回も多くのお客様、大学関係者、近隣の方々から多種多様な品物を送って頂きました。

電気炊飯器、冷蔵庫、電子レンジ、掃除機、アイロン、洗濯機等々の電器製品、自転車、寝具類、文房具、靴、春夏用衣類、着物、机、本箱、鍋、フライパン、ケトル等の台所用品、日用雑貨、食品など、会場に収めきれないほど、沢山ありました。書籍類は、思いのほか少なかったです。

掲示やオリエンテーションでの説明だけでなく、チラシの手渡しなどが功を奏して、留学生は 2 日間で 250 人ほどが参加しました。

今回は、新品の電気製品、自転車は 1,000 円、新品の寝具は 500 円、その他はみな 100 円以下、書籍は無料で配布しました。自転車は抽選にしましたが、4 台の自転車に 30 名以上の応募者がありました。参加した留学生たちは、新しい生活を始めるのに必要なものが、バザーでそろえられることがとても嬉しい、こんなに安くていいの？信じられない！といいながら色々選んで、喜んで持ち帰っていました。

着物を試着して、帯、羽織などセットで揃えてもらい、喜んでいた留学生、子供用の服をたくさん持ち帰った留学生、日本語関係の書籍や

絵本、辞書など沢山選んで帰っていく学生など、みなありがとう！と感謝していました。支援の会の担当者としなくても、役に立てて良かった、皆様のご協力のおかげ、と疲れなど吹き飛ばしてしまいました。最後に、お皿やコップ、台所用品、若者向きでない衣類、本などが幾分残りましたが、次のバザーに回すことにしました。

バザーの収益金は、143,000 円でした。

※いつもながら毎回、送料もいとわず、様々な品物を提供して下さった会員の皆様には、留学生ともども心から感謝申し上げます。

留学生支援の会のバザーに 参加してよかった！

大学院博士前期課程
任 雅潔(中国)

留学生支援の会のバザーに初めて参加したのは去年研究生のときでした。東京外国語大学に入って先輩の口から聞いて初めて留学生支援の会の存在を知りました。そして去年4月の最初に、留学生支援の会により開催されたバザーに参加しました。また今年ちょうど引っ越ししようとしていた時期で、電気製品などをバザーへお送りしました。この一年では留学生支援の会の方々大変お世話になりました。

初めてのバザー体験は去年の4月頃で、とても人気があるバザーに参加するため、大勢の学生たちが押し寄せ、並んでやっと入りました。バザーで展示された商品が驚くほど豊富でした。書籍、各種辞書、電気釜、冷蔵庫、テレビ、電子レンジなどの電気製品、寝具、衣類などの日用品、保存のきく食品などなど、中古品も新品もすべて留学生が必要とするもので、値段も非常に安かったです。

バザーに参加した人のほとんどは私のよ

うな留学生でした。私たちにとっていい品物を安価で得られて本当に嬉しかったです。特に引っ越ししたばかりだったので、家電製品から細かいものまで全部必要としました。バザーに来て結構新しい中古品の冷蔵庫と電子レンジを見つけて思い切って手に入れました。また、電気製品などを一人で持ち運びできないことを留学生支援の会の方に伺ったら、安い送料を払えば家まで送って頂けると教えてくださいました。「やった！」すごく嬉しくて、留学生支援の会と知り合っただけよかったと思いました。バザーで買ったものを一年間ぐらいうまく利用できました。

今年の4月に東京外国語大学大学院に進学できて、学校にもっと近い寮に入りたいと思いました。その時すごく悩んでいたことは家電製品の処理でした。ある日、掲示板のポスターを見て、留学生支援の会により開催されるバザーのことを思い出しました。早速担当者の梅田さんに連絡して、まだまだ使える電気製品や生活用品だったら、バザーに出せると伺いました。さらに、留学生支援の会の井上さんとご主人も一緒に武蔵小金井から多磨まで車でバザー会場へ運んで頂きました。これまで留学生支援の会にお世話になりっぱなしで、親切なスタッフの方々に本当に深く感謝しております。外国で一人暮らしをしている私には、家族みたいな暖かさを感じられました。

東京外国語大学留学生支援の会は、バザーだけでなく日本文化に触れる茶道体験や見学などいろいろ主催されているそうです。留学生にとって、日本や日本人を理解する貴重な機会だと思います。私自身自身もできるだけ多く参加して、日本を理解できる中国人として日中関係の良き礎になりたいと思います。

支援の会の皆様に心から感謝申し上げます、これからも宜しくお願い致します。

Wonderful Bazaar!!

ISEP インウェイション(台湾)

Have you been to the bazaar which is held twice a year in dorm 2? If your answer is no—well, you don't know what you have missed. The bazaar organized by Ryugakuseishiennokai(留学生支援の会) is somewhere that allows you to explore your hidden potential to be a bargain hunter. Imagine a pair of cute shorts, a one piece dress, and a big traveling bag that only cost 300 yen in total. That is more affordable than a meal! Indeed, they are all used articles left by previous exchange students, but most of the case is that they look just like new ones—with 90% discount or even more compared to the original price. Not to mention all the varieties that you can find—from One-Piece notebooks to a whole set of kimono! (Yes, sometimes kimonos can be found in the bazaar!)

What is more, bazaar offers a great opportunity for you to have a small talk with people around you. “That really looks on you!” “You think so?” “Yeah, I would buy that if I were you. It is totally worth it!” And probably you may find someone to go to other flea markets held in Tokyo with! (It is one of the ways to explore Tokyo citizens' daily life in the flea markets!)

When I shared how fun TUFUS' bazaar was with my friends who study at different universities, their envious look made me feel it is very lucky to have

Ryugakuseishiennokai's support. Every semester, those kind volunteers will collect used articles and sort them with care, which is really time-consuming. Without their help, the bazaar will not be that much of fun!

What did you buy in this semester's bazaar? If your answer is “nothing” or “nothing special,” please have a close/closer look in next semester's bazaar, and have fun!

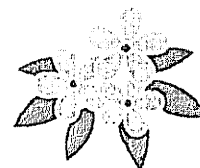
4-2 [工場見学]

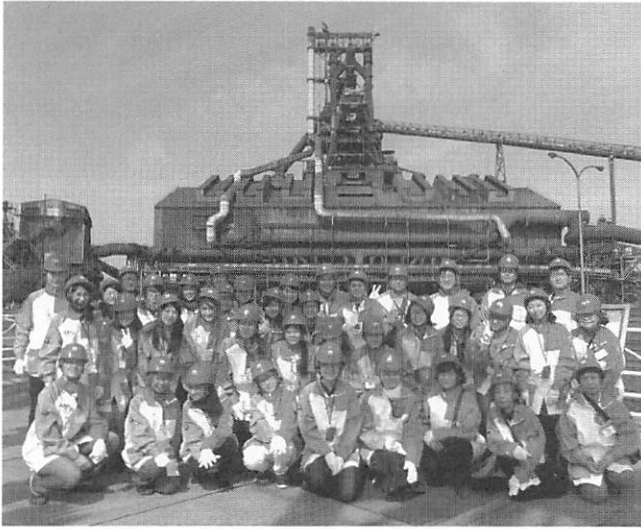
新日鐵住金 君津製鐵所 見学ツアー —厚い鉄板がみるみる間に薄くなる!—

1. 日 時 2月23日(月) 9:00~17:15
2. 参加者 留学生25名、日本人学生6名、
留学生課3名、
留学生支援の会4名 計38名

2015年2月23日(月)、新日鐵住金株式会社君津製鐵所及び久留里にある吉崎酒造の見学ツアーを実施しました。留学生25名、日本人学生6名、森留学生課課長、小林課長補佐、末次課員、留学生支援の会4名の引率者を含め、38名が参加しました。

早朝から降っていた雨が上がり、集合場所の浜松町を予定通りに出発。日本の自動車会社との通訳が多いという留学生は「自動車の材料になる製鐵に興味があり参加した」と、自己紹介をしているうちに、羽田空港、アクアラインを通り過ぎ、1時間10分で新日鐵住金株式会社君津製鐵所に到着しました。





製鐵所の心臓である最新の第4高炉前で

白地に赤と灰色のジャンパーを着て、真っ赤なヘルメットを着用し、いよいよ見学がスタート。東京ドーム220個分の広さのある工場をバスで移動します。工場内は山の手線2周分もある70kmの線路網が敷かれているとのことでした。

まず、ジェット機2機分の300トンの銑鉄を板にしていく厚板工場を見学しました。真っ赤に燃えた巨大厚板を見た途端、目を見張ってしまいました。

次に、高炉内の見学は禁止とのこととても残念でしたが、製鐵所の心臓である最新の第4高炉前で記念の写真を撮りました。

その後、熱延工場を見学しました。1200℃に加熱された1600mもある真っ赤な火の板が、コンベアーに乗せられて運ばれてきます。上下左右から大量の水をかけて冷却し、幾つもの圧延機を潜り抜け、板の厚さを段々と薄くしていく工程が続きます。その厚さは、240mm→20mm→5mmと変化していくと説明がありました。そのための水は1日300万トンも使用するとのことでした。この光景にこの凄さに見とれてしまい、感嘆の声が上がっていました。見学後は学生たちから活発な質問がありました。

新日鐵住金君津製鐵所の見学を終え、和風そのものの日本料亭の日本料理に舌鼓を打つ昼食となりました。セットされた和食御膳に、刺身が残っている膳は2つほど、留学生一人一人が満足した昼食となりました。幸せになった後は車を走ら

せ、久留里にある吉崎酒造を見学し、何種類もの日本酒の試飲を味わいました。

残念なことに仕込みの開始後の時期であったため、酒蔵には入れませんでした。

久留里城は休館のため中止せざるを得ず、また時間の関係もあり、久留里地区散策は取りやめ、海ホテルで休憩をし、予定通り17時に浜松町に到着し解散しました。

学生たちの感想は次のようでした。

「実際に見たので凄かった(目を丸くして)。案内者の説明がよく、溶鉱炉は初めてだったので感動した。鉄が次々と追ってきて薄い鉄ができる様子や、酒蔵見学は嬉しく、役に立った。大きく240mmの鉄板の厚さが薄くなっていくその技術が凄い。迫力、熱気が感じられ、生で見ると身の回りにある鉄製品がよくわかる。」などとの声が聞かれました。

特に留学生の異口同音の感想は、日本料亭の座敷の雰囲気と、四角御膳に体裁よく並べられたの日本料理に感動し、完食できたと喜んでいた姿が印象的でした。留学生たちの製鐵所見学と食事を満喫したその感激に、我々も嬉しさを感じた一日になりました。

(幹事：小松増美)



久留里にある吉崎酒造を見学

4-3 [鎌倉バス旅行]

鎌倉見学旅行に参加して

1. 日時 3月20日(金)
2. 参加者 留学生35名、日本人学生1名、鎌倉在住会員4名、留学生課1名、留学生支援の会5名、計46名

鎌倉見学旅行を楽しみました。3月20日に留学生35人、日本人学生1人、鎌倉在住会員4人、留学生課1人、幹事5人、合計46人の参加を得て古都鎌倉見学日帰り旅行を楽しみました。

昨年までは日曜日か祝日の休日に行っていましたが、今年はウィークデーの金曜日に行ったため、東京鎌倉間はもとより、鎌倉市内でのバスの運行が大変円滑に行きました。

また神社やお寺が多数の観光客で混雑することもなく落ち着いて文化財を鑑賞するとともに鎌倉在住の会員方の説明を静かに伺い、留学生の皆さんもよく理解できたと思います。

最初に着いたのは円覚寺でした。大きな木々に囲まれた中に在る山門、近藤昭五郎など由緒ある建物を目にして、その昔来日した中国からの高僧が建立したという歴史に思いを致しました。

次は神道の鶴岡八幡宮でした。八幡宮は昔武士が自分たちを守るために建てたものだという説明を聞いてから階段を上りながら見上げると、鎌倉の中央に位置し誇っているように見えました。

多くの留学生がお賽銭を投げたり、絵馬を書いたりして何かわかりませんがお願いをしていました。

お寺と神社を見たことから、留学生から神社とお寺の違いは何ですか？とか、誰を祀るのが神社ですかなどという質問が出されたりして、日本の宗教、歴史に関心を持っていただけたのかなと思いました。

そうこうしてる間に皆お腹がすいてきて、由比ガ浜近くのレストランで魚や貝のランチを食べました。

モスLEMの人が何人かいましたが、残す人はほとんどいませんでした。そして食事も早々に由比ガ浜海岸に出て裸足になって砂浜と潮風をエンジョイしました。

国によっては海に接する地域の無い国もありますから、海の自然環境も一つの経験になったのかと思いました。

その次はまた仏教の長谷寺でした。小山を利用した美しい庭の上に10mもの高い観音像が祭られているお寺です。著名な仏師の彫刻による11面観音像を愛でてから見晴らし台にいくと、広大な由比ガ浜が一望に見渡せて、心が広がった気持ちになります。

した。

最後は鎌倉でもっとも有名な大仏でした。高德院というお寺の13メートルの大きな仏像です。元々は大きな仏殿の中にあっただけですが、波に流されたという説明を聞いて急に現世に戻り、今に変わらぬ自然の脅威を思わざるを得ませんでした。

多くの人が美しい仏像を見上げている表情を見ると等しく優しく和やかで心休まる感じがして、鎌倉大仏が人々に慕われるのもむべなるかなと思いました。

バスは順調に一途東京を目指し、予定時刻の17時前に帰着しました。充実した一時でしたが、それだけに鎌倉在住の皆様方のご協力に改めて感謝申し上げます。

(幹事: 笹岡太一)

一生思い出になった一日

研究生

ファフィリディン(ウズベキスタン)

日本の歴史に大変興味を持っている小生、3月20日に外国人及び日本人の皆様と日本の美しいところである鎌倉に行ってきた。鎌倉について色々聞いたことがあるが、「百聞は一見に如かず」と思って鎌倉へ行くこと決めた。また、新しい友達が出来た機会としても大変楽しみにしていた。

その日、皆で新宿で集まった。朝は早くて、ゆっくり朝食できなかったけれど、支援会の皆様を用意してくださった朝食ボックスを見て非常に嬉しかった。バスに乗って、皆様と色々な話、または自己紹介をしながら鎌倉へ向かった。バスにも優しいガイドさんがいて、色々丁寧話してくれた。

2時間ぐらいで鎌倉に着いた。現地の方々が迎えに来てくれた。現地の人は自分の町のことをよく知っているから、お話を聞くのが楽しみだった。

まずは、円覚寺へ行った。説明を聞いてから、中に入った。今でも勉強している人々がいるから、ガイドさんに「静かにしてくださいね」と言われた。円覚寺は非常に綺麗なところで、心が落ち着く場所だった。自然も素敵だし、空気も良かった。

そんなところに毎日来られたらいいなと思った。

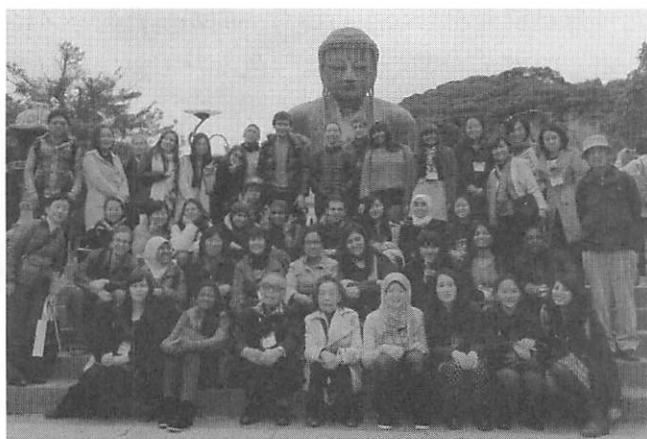
お昼も立派なところで食べさせて頂いた。留学生の皆さんの食べられない料理まで担当者の方々が考えてくれて、非常に助かった。名前は覚えていないけど、お昼に食べた魚が日本に来て食べた「マジで美味しい!」と思った魚の一つだった。食事後、皆と一緒に海のところに行った。その感じを言葉では伝えられない。

小生はウズベキスタン出身で、ウズベキスタンは直接海には出られない世界の二国の一国である。つまり、日本に来るまでに海を見たことはない。海は凄く大きくて、自分はその大きい世界で一番小さい部分の一つだという感じがする。海の辺りでゆっくり歩いて、非常に気持ち良かった。

または、鎌倉で印象に残ったのは、鎌倉大仏だった。日本に来るまでに、日本について情報では富士山、東京タワー、または、鎌倉大仏がよく出てきた。実際に見られた、非常に嬉しかった。皆様と記念写真もいっぱい取れた。現地の方も鎌倉大仏の今までの歴史、または顔の説明もしてくれて、大変勉強になった。

さて、鎌倉に行く前に少し歴史について勉強したけど、勉強が本当に足りないことが分かった。鎌倉では観光も出来たし、凄く自然が綺麗なところでゆっくり出来て気持ちが非常に良かった。日本史のことで勉強になった。機会があれば、また鎌倉に行きたい!

以上のような素敵なツアーを体験させて頂いた担当者の皆様に大変感謝を申し上げます。



Observation tour to Kamakura

ISEP

バス ルーカス(ドイツ)

On the 20th of March, International Student Support Association organized a trip to Kamakura, for exchange.

Students and Japanese students as well.

In 1192 the Minamoto clan established a military government in Kamakura, which lasted until 1333. Before that, Japan was ruled by the emperor and his regents. Witnessing that fundamental.

Change in Japanese history, and because of the many temples and shrines, Kamakura is a popular tourist destination.

Though close to Tokyo, many students have not yet been there, so we happily.

Took this opportunity, to take part in this trip. From Shinjuku we went by a bus to the first stop, which was a temple, called Engakuji, which was built to honor the war dead of the battle against Mongolia.

After that, we visited the Shinto-shrine Tsurugaoka Hachimangu, Kamakura's most important shrine. A straight road connects the Kamakura beach to the shrine, built by Minamoto no Yoritomo, where the god Hachiman resides, to protect Kamakura.

At lunchtime, we went to a restaurant, close to Kamakura beach, where we had some free time to enjoy ourselves.

Then we walked to Hasedera Temple, with not only the golden Kannon statue, but a very beautiful flowers and a Japanese-style garden.

Our last stop was the famous and impressive Daibutsu, a huge statue of Buddha.

Around 6 in the evening we arrived back in Shinjuku.

As staff from the student Exchange Division always explained things and gave us

information, the trip was very interesting.

They also made sure, everything went smooth and the students were able to enjoy their time.

It was a very well organized trip and it is really cool that International Student Support Association offered this chance to us.

4-4 [大國魂神社くらやみ祭り]

「大國魂神社 くらやみ祭り見学」報告

日時 2015年5月4日(月・祝日)

参加者 留学生25名、日本人学生2名、幹事5名
(府中市観光情報センター9名様に引率いただいた)

全体行程 10:45 府中駅出発 → 集会所(待機所)
ここで留学生に昼食用おにぎり・パン配布、
ハッピーを着て各自記念撮影 → 旧甲州街道説明 → 高札場 → 酒蔵訪問 → 子供の神輿見学 → 大國魂神社 → 東照宮
→12:30 万燈大会見物 →13:00 伊勢丹前
けやき並木で解散

主な見学内容

集合後、4~5人毎に府中市観光センター・ガイドメンバー様の先導で出発し、まずは一旦集会所に集まって、留学生各自が祭り用の日本情緒豊かなハッピーを着て記念撮影した。この辺はガイドメンバー様のご配慮によるものであり、留学生にと



祭り用のハッピーを着て記念撮影

っては貴重なシャッターチャンスであった。

最初に旧甲州街道とその交差点に位置する高札場に案内され、ここでもかなり詳しく説明を受けたが、特に高札所という江戸時代の公共掲示場は、往時を偲ばせる実務的情報発信基地として興味あるものであった。

そのすぐ対面には酒蔵があって、そこでは全員が気楽に試飲させていただけたが、特に留学生にとっては日本酒というものの味を体験できる恰好の場となったはずである。

いよいよ祭りの中心となる大國魂神社に向かう途中、偶然ではあるが子供の神輿に遭遇できたが、それはやや小ぶりながらも精巧な造りと鮮やかな色彩で皆を魅了した。

1900年の歴史を持つ大國魂神社内では本殿を一周する形で見学させていただいたが、その威容とともにそれを取り巻く種々の建造物や木々の由来にも触れる機会を得た。特に東照宮については、家康の亡骸が日光に向かう途中ここに安置されたという貴重な史実を知ることができたが、多くの留学生に聞くと家康という存在はかなり知られているようである。

最後のハイライトは万燈大会見学、まさに華麗にして勇壮な出し物であったが、これは関係者による採点をベースとした競技でもあったため、その盛り上がりは想像以上。ただ、競技開始までの主催者挨拶は留学生にとってはやや退屈であったかもしれないが、時間制約から実際の競技見物は短時間に終わってしまったのは残念である。

所感と反省

(1) 府中市観光センター様からの絶大なご協力
集合から解散まで随時タイムリーかつ懇切丁寧な解説を賜り、感謝あるのみ。回数を重ねるごとに留学生の興味の対象や趣向をご理解いただいて、記念撮影・日本酒試飲まで段取りしていただいた。

(2) 当日不参加者ミニマム化への工夫が必要
本来、参加名簿に登録されていた人数に対して大幅に少ない当日参加者であり、至極残念。集合時間を15分延長してまで待ち続けたが、一部の

見学時間が固定されていたので止む無く出発した。当日は偶然にも別の外大留学生達ツアーがあり、一部そちらへ流れてしまったようであるが、これについては来年こそ是非統一して実施したい。

(3) 見学後のアンケート結果

参加者の大半が非常に肯定的好意的な印象を持ち、また歴史をよく理解できたと回答。事実、多くの留学生が解散後再度神社に戻ったり、また翌日(5月5日、別の行事あり)再訪したそうで、日本文化・歴史理解に貴重な行事となっている。

(4) 来年に向けて

留学生の興味は文化・歴史とは別に、神社内に溢れる出店にもあり、解散後に再度戻って行った者が多かったので、解散を神社内または入り口近辺にできないだろうか？

(幹事：中村皓一)

VOICE

5. 留学生の声

5-1 京都ホームステイの日々

言語文化学部 2年

ドツェンコ リュボフ

今年4月2日、私は来日してからちょうど2年間になります。その間帰国しませんでした。今年春休みに母が来日しました。

しばらく時間がたってから留学生課の梅田様から連絡が来ました。藤岡様という方が京都や大阪など私たちウクライナ人を案内して下さいますとのことでした。こんな素晴らしいチャンスなのがしてはいけないと母にいわれました。

3月2日朝早く出発し、新幹線で京都へ行きました。新幹線に乗ることは母の日本でしてみたいことの一つでした。途中で近く富士山もみました。天気が晴れていて、ビデオも撮りました。

京都駅は思ったより大きい駅でしたから、待ち合わせの場所間違えてしまいました。ようやくス

マートフォンの地図を使って反対側のところで藤岡様と奥様と会えました。

そしてすぐ車に乗せられ清水寺へ行きました。そこには普段非公開の『月の庭』と呼ばれるところも開いていました。母は日本風の庭に大変興味がありますので、とてもよかったです。

そのあと昼御飯でした。母はもうお箸をよく使うことができましたので、藤岡様にほめられました。

藤岡様は私たちの行きたい場所を聞きました。母はインターネットで龍安寺について読んだことがありましたから、その15個の石ある世界中有名な庭を見たかったです。私は京都が全然知らなかったもので、京都の和菓子食べたいとって、その他お任せしました。

こうやって母のもう一つの夢が叶いました。どこから見ても14個の石しか見えないというあの有名な庭を見ました。インターネットで見るとは実際に直接自分の目で見ることと全く別の話です。私も龍安寺について読んだことがありますので、母と一緒に興奮しました。

京都の観光といえば、もちろん金閣寺を思い浮かべるでしょう。私たちがそこを訪れたとき空がちょっと曇っていて、キラキラの金と静かな水と自然とのコントラストが非常に印象的でした。

その後平安神宮も見ました。藤岡様によると、バスで来る観光客が外にある鳥居と建物だけを風景に写真を撮り、それで終わりだそうです。

しかし建物の向こうにはとてもきれいな庭があります。そこは人がほとんどいませんでしたから沢山の自然の写真を撮れました。

1泊目はホテルで過ごしました。部屋の二つの窓から海が見えました。とても心地よい部屋でし



た。

2日目に藤岡様はトラックを使って、和歌山の有名なところを案内して下さいました。千畳敷、白浜、円月島など自然の美しさはとても印象深かったです。

梅畑も見ました。梅の花はもう散り始めたので、藤岡様はわざとまだ満開にあるところを探して下さいました。山に囲まれた梅の畑は本当に素晴らしかったです。



夜は藤岡様の家で晩御飯をいただきました。奥様は料理が大変お上手で、とてもおいしかったです。食事の後短い間ですが、藤岡様のお嬢様と孫達と会うこともできました。

2泊目は年上のお嬢様のマンションのゲストルームで過ごしました。それは大阪の中部にありました。

3日目には大阪の海遊館を訪れました。それはアジアの一番大きい海遊館だそうです。その後奈良公園へ行きました。母は鹿に煎餅をあげました。とても楽しい思い出になりました。東大寺にも行きました。

その後小さな喫茶店で抹茶と餡蜜とわらびもちを食べました。私はそのときから抹茶が大好きになりました。

そして夜、藤岡様と奥様は私たちを大阪駅のバス停まで案内してから別れを告げました。私たちは沢山の思い出と写真を持って夜行バスで東京へ帰りました。

この3日間はとても素晴らしい時でした。新幹線に乗ること、日本風の庭を見ることや太平洋に触ることなど、母の沢山の夢が叶いました。私も母と一緒に様々な素敵な場所を見ることができたことをとても幸いに思います。

藤岡様とご家族の皆様、藤岡様を紹介して下さいました梅田様、そして留学生支援の会の皆様、この素敵な日本文化の体験のことをどうもありがとうございました。

5-2 静岡への癒し旅行

大学院生(中国)

カンケンシン

留学生支援会に主催され、2月22日から24日まで二泊三日間静岡で過ごしてきました。夏からずっと憧れていたお寺住み込み旅に申し込みができてとても嬉しかったです。

住 in 静岡 バスが沼津駅に着いて、長興寺の御坊さんやファミリーの方々が車で迎えてくれました。初めて日本の地元に訪れたので、東京みたいな大都市と違って、のんびり、ゆっくりの生活ペースが肌で感じられました。ホストファミリーの方々がとても熱心に留学生たちを招待して、おもてなしに面倒を見るらしいです。せっかくなので、私はお寺に住み込むことを選びました。住んでいる部屋には掛け軸があり、「雪の後、松栢の存在を知る」ととても意味深く、気品がある書の作品です。お坊さんと奥さんが毎朝、おいしい食事を用意してくれていつも感謝です。お坊さんはとても優しくユーモアのある方なので、いつも笑い声が止まりませんでした。まだまだ真冬なので、ストーブも用意してくれてとても暖かかったです。夜になると、静岡は早いうちに眠りをつきます。東京みたいなネオンちゃらちゃら輝いている夜生活がほぼ見られません。このような静かな環境で、自分も徐々に心が落ち着いて、のんびりで素朴的な生活を楽しめるようになりました。

遊び in 静岡 2月23日は富士山の日だそうです。この日に、静岡の小学生たちが富士山の麓から高原牧場を散歩するそうです。いい天気恵まれて、私たちも遠足に参加しました。高原牧場で草のかおりを嗅ぎながら牛乳を飲みました。なんか毎日富士山を楽しみながらのんびりの生活を過ごしている牛さんも幸せそうだなと感じまし

た。さらにうれしいのは散歩の途中で牛乳やヨーグルトも飲食できることです。高原牛乳が美味しくて、またいい体験になりました。

食 in 静岡 初日の晩御飯はおいしいちゃんこ鍋にしました。ホストファミリーと留学生が一緒に座りながら喋ったり、素晴らしい手品も鑑賞できたりみんなすぐ馴染んで仲良くなってきました。翌日の夜はお寺チームが海鮮料理にしました。沼津港は海の幸で有名で、日本人でもうらやましいほど美味しい海鮮料理を食べられてうれしかったです。

伝統文化体験 in 静岡 いよいよ今回の旅のテーマに近づきました。座禅、抹茶体験です。抹茶はこの前何回か体験したことがありますが、今回はお茶の名産地で体験できて少し違うような気がします。

静岡地元の方にお茶をたててくれて、また静岡産のお茶と静岡の水を合わせて、「天の時、地の利、人の和」完璧にそろってマッチした感じです。座禅も私たちが住み込む長興寺で行われました。お坊さんからフォーマルな姿勢を教えてもらって、目を半分閉めて座禅をしていました。30分ぐらいの座禅は外国人の私たちにとって足がきついです。しばらくの間、世間の騒がしさから身を引いて、心を清めるのがなかなかいい経験だと思います。最後、みんな喜んで達磨と集合写真をとりました。

静岡の旅が終わってからずいぶん長い間になりましたが、静岡のことを思い出すと、依然として心が温まってきました。地元の暖かさ、子供の笑顔、同行の友達も仲良くなってきたこともすべてが忘れがたい思い出になりました。すべておもてなしに招待してくれた地元の方々に感謝です。このような素晴らしいイベントを主催してくれた留学生支援会にも感謝の気持ちで一杯です。

5-3 今年の2月にも「ふじのくに留学生ツアー」に19名の留学生が参加

静岡の長興寺住職の松下氏が「テンプルステ

イ」を企画していただいてからもう13年が経過し、今年の2月にも「ふじのくに留学生ツアー」の2泊3日のホームステイプログラムに19名の留学生が参加しました。



毎年留学生は、様々な得難い経験をして帰国しますが、帰国後も互いに交流を続けて訪問しあっている家族もいます。

以下は今回の参加留学生たちが受け入れ家庭に残した言葉です。

イシア（韓国）

本当に楽しい旅でした。

実は、私はカトリック信者で、お寺で泊まったことは初めてです。龍澤寺と長興寺の二つの寺を見たり、そこでお茶を飲んだりして、寺の趣を十分感じました。

富士山と海が一緒にあるこのところに来て、日常生活の悩みや心配を全部忘れることができ嬉しかったです。寺だけでなく、全体の旅の食事と行くところがよくて幸せな3日でした。みんなにありがとうございます。

ガウハラ（カザフスタン）

今回のホームステイツアーに参加できて本当にラッキーだと思います。静岡は初めてでしたが、あんなに素敵な場所だと知りませんでした。いろいろな面白いところに連れてもらって、たくさんごちそういただいて、とっても楽しかったです。

私たち留学生にとってこのようなホームステイプログラムは貴重な機会なので、それを与えて

くれてとても感謝しています。

一番印象に残ったのは座禅体験と白糸の滝の鑑賞でした。

座禅は人生初の体験で少し大変でしたが、やって良かったと思います。心が落ち着き気分が楽になりました。30分も同じ姿勢を保つのは難しいので初心者の私たちのために2つの15分コースに分けてくれて良かったです。

このツアーを作ってくれて本当にありがとうございました。とても良い思い出になると思います。ふまんの点は一つもなかったです。ありがとうございました！^^

アイ (キルギス)

今回の静岡ホームステイプログラムでは、静岡県の名所(富士山、白糸の滝など)を紹介していただき、また日常生活では体験できないこと(坐禅、餅つき、茶道)なども体験できてとても良く、楽しい時間を過ごすことができました。

計画的には少し忙しかったけど、たくさんの新しいことが知って、とても良かったと思います。その他にもあまり話す機会がなかった人達とも会話ができて、この2日間は面白かったです。

またお寺で泊ることが初めてだったので、とても面白くて、最初は風の音でちょっと怖かったが、泊るところが広くて、きれいで良かったと思います。私たちを明るくて、やさしく歓迎してくれて、本当に有難うございました。機会があったらまた是非来たいと思います。

殷 偉瑚(イ ウェイヤン) (台湾)

ニックネーム：サマー

台湾からのサマーです。この活動で、多くの新鮮な体験しました！たとえば、坐禅やお寺で泊まることなどです。外大の交換留学生と一緒に参加

して、ほんとに楽しかったです。毎日の食べ物もおいしく、満足になりました。

今回は、案内をもらった時、自分の日本語の能力が下手ですので、他の人を訳してくれなければならなかったです。彼らにあんなに迷惑をかけてすまなくと反省しています。今度は、夏コースも申し込みたいです。ありがとうございます！

かん けんしん (中国)

ニックネーム：かんかん

私は中国瀋陽から来たかんけんしん(かんかん)です。頑張って頑張ってこのお寺ツアーに参加できました。(人気が高すぎて申し込むのが難しいらしいですよ)

坐禅と言ったら、日本人の友達もうらやましい、行ったことがないと言っていましたよ。だから、すごく楽しみにしていました。

1日目はお寺を見学でき、茶会も開催され、坐禅もしました。日本のお客に対するおもてなしを深く感じました。坐禅して、心を清めることができます。自分は坐禅するときも精神が集中できなかったなあと反省しました。でも楽しかったです。

2日目、朝霧牧場に出発しました。ほかの人のHost Familyの子供と仲良くなってきた。嬉しかったです。乳牛を見た後ミルクを飲むのがいい体験だと思っています。3日目も楽しみにしている。伊豆半島の温泉へ！

私は静岡に来たのは初めてです。今までの旅行は全部大都市だった。でも地元の風情と人間の暖かさを体験できて日本のもう一つ顔を見られてとても嬉しかったです。お寺での宿泊も人生の自慢になります。(笑)素朴な生活、静かな心、人生に十分だと思います！

みんなお世話になりました。日本でとてもいい思い出になりました。ありがとうございました！！

秋期バザー開催のお知らせ

開催：9月29日(火)～9月30日(水) 場所：国際交流会館2号館交流ホール

新規加入者 平成27年2月6日～5月27日

■一般会員

青木みのり	太田弓子	古藤萌絵	高崎友希	西村一葉	三ツ井花奈
秋山法久	大野久美子	小林信行	高根陵	西山俊剛	美濃部仁
揚野将士	岡戸千香	小林浩昭	高橋勲	根津千幸	三宅博
旭真梨絵	岡畑慎二	小原洋一	高橋舜	根本康代	宮崎正雄
天野真秀	奥松英幸	駒田浩志	高橋弘子	野口雅子	村田桂
天野優里	長田和雄	駒林真男	瀧文男	橋本多聞	目見田貴彦
新井洋明	長田美喜	齋藤和徳	武井圭吾	長谷川宏樹	茂田能典
荒川修	落合由希	榊原万莉子	竹内修	蜂谷和俊	望月幸美
荒木文司 <small>貴</small>	鬼木保	坂本望	竹内豊	濱渦裕彦	森出
安西義英	小野太一	坂本正明	田中克典	濱田弘昭	森田雄二
安藤博光	小野弘彦	櫻井健二	田中南歩	早田有伽	森山隆介
飯塚宣男	小原駿一	佐々木敬	谷川浩道	伴一訓	森優希
飯野能弘	帯刀円次	佐々木寿好	谷平憲治	広江麻美	安田浩一
池田涼未	小峰佳那子	佐々木洋二	谷佳典	福岡秀樹	安田晃章
池田幸弘	柏昌宏	佐藤秀行	田ノ岡優紀	福田桜子	安村怜子
石井美智子	糟谷綾香	佐藤舞花	田村浩司	福田泰子	渡辺聡子
石崎美夏	勝又和善	佐藤由佳	田村茂	藤井義明	矢部美保
石田憲弘	加藤公茂	佐野和哉	陳祖勇	藤木達也	山川幸洋
石原栄市	金盛ひろ美	三都須 <small>マルコ</small>	柘植千夏子	藤田花	山口清
石原奈美	河合智恵子	塩崎武世	辻史郎	藤田義雄	山口由美
伊藤秀樹	川井浩美	篠田和範	土田萌絵	藤本純子	山下昭彦
稲垣幹治	川嶋里都子	渋谷祐二	妻井博之	古川昌彦	山田和生
今吉明德	川瀬妃佐代	島田宣彦	土居晴美	古田ひとみ	大和矢祥子
入江樹	川田千春	清水次男	遠山照利	星野秀明	山ノ上美奈子
岩崎勉	来島光利	下浦陽	冨依豊	本田美紅	横森徹
岩田誠一	北野千登子	下村幸子	友添太郎	本多美由樹	吉岡哲也
岩原伸之	北村宜章	常恵齋	直井圭史	増井美佳	吉川真優
岩渕博行	木村哲也	章みどり	永井重克	増田瑞紀	吉田淳一
岩渕麗奈	木村政幸	白木玲子	長井康裕	増山陽奈子	吉田達也
岩本達典	木村学	新澤岳朗	中嶋聡	松井崇	吉田直容
内田みづき	葛巻実里	杉原真司	仲野公一	松井康夫	吉田実織
梅津綾花	久保仁	杉山和彦	中野佳子	松浦孝祐	吉田保隆
衛藤菜々	栗原健也	鈴木佳音	長野良	松原伸一郎	吉田夕美子
遠藤廣一	黒白恵美	鈴木佐弥	中村正久	松原康江	吉田隆一郎
及川勝	黒部憲嗣	鈴木崇	中山慧子	松前雅臣	林志中
大石周	五井秀一	鈴木徹	永山南美	松本仁志	若園恵子
大内拓郎	小出喜四郎	鈴木麻友	並木智寛	三上耕一	若山章一郎
大串柚香	國分亮子	関孝宏	檜崎貴浩	水野茂	渡辺圭太
大澤真二	小嶋夏菜子	高城綾奈	成田淳一	水埜正彦	
大嶋美月	小平京子	高倉誠司	西江渉	三谷真子	

※異体字のために正しく表記されていない場合がございます。

※万一お名前に間違いがありましたら深くお詫びいたします。

その節は当会までお知らせくだされば幸いです。

REPORT

6. 奨学生のご紹介

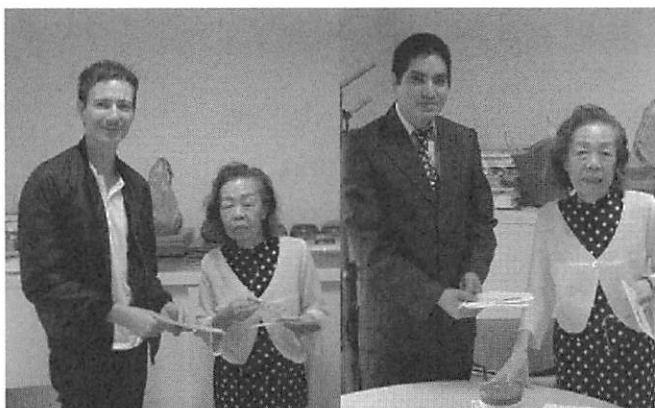
6-1 平成 27 年度奨学生

6月21日(日)、留学生支援の月例幹事会に、平成27年度奨学金受給生4名が出席し、中嶋会長より、激励の言葉を添えて、第1回目の奨学金が手渡された。

奨学金受給者は以下の4名。

大学院生：ライコビッチ ミルティンさん(カナダ・男)4月～翌3月分を支給。同：プルナ カルキさん(ネパール・男)4月～9月分を支給。同：ソ ミョンファンさん(韓国・男)10月～翌3月分を支給。

学部生：サイ キョービンさん(香港・女)4月～翌3月分を支給。



(6月20日、留学生支援の会連絡室にて、中嶋会長から奨学生に、4月～6月分の奨学金が手渡されました。ライコビッチ ミルティンさん(上左)、プルナ カルキさん(上右)、サイ キョービンさん(下))



最左がソ ミョンファンさん

ACTIVITIES

会員寄付者

■ 一般寄付(平成27年2月6日～6月25日)
五十幡圭右 坂本恵 菅原恵美子 鈴木克寿
中川操子 花澤聖子 矢加部彰 (敬称略)

新規加入者(P20 追加)

■ 窪田博之 末次透 古川賢志 (敬称略)

※万一お名前に間違いがありましたらお詫びいたします。その節は、当会までお知らせくだされば幸いです。印刷できない外字等、ご了承ください。

6月25日現在
会員数:985名

すべての活動は、皆様の年会費とご寄付で行われております。本年度会費を同封の振込用紙にてお振込くださいます様、お願い申し上げます。

※ ひとりでも多くの方々の早期納入のご協力をお願い致します。

※ 振込用紙にメールアドレスをお書き添えいただければ、今後、当会の各種イベントなどの情報をお届けしていきます。

一般会員:年会費 3,000円
協賛会員:年会費 20,000円

7. これからの活動

8月1日(土)～3日(月)
静岡県で2泊3日のホームステイ

日時 8月1日(土)～3日(月)
募集人数 留学生15名(先着順)
富士山麓ウォーキング、修善寺見学、座禅、温泉体験など楽しい企画が一杯です。
参加費用: 5,000円 + 3,800円(往復バス代金)
お申し込み: 留学生支援の会連絡室

幹事会

下記のとおり幹事会を開催しました。

平成27年5月17日(日)
平成27年6月21日(日)
平成27年7月12日(日)

秋季バザー

留学生に毎回大変好評いただいております秋期(9月期)バザーの開催に向けて、送付受付期日をご確認の上、バザー用品をご準備、ご手配いただきたくお願いを申し上げます。

バザー用品受付期間

9月15日(火)～9月28日(月)

当期間の平日に受付いたします

■各種辞書、日本文化・歴史に関する書籍、文学作品、日本語教育、日本語学習関連書籍など
■台所用品(小型の鍋、フライパン、電気炊飯器、レンジ、トースターなど)

■日常生活用品(自転車、タオル、毛布、布団、食器、衣類、電気製品(一人で持ち運び可能なもの)、保存のきく食品など)

■国際交流事業の一環としての「着物・着付け」用男性羽織・袴一式、振袖、帯など

※古着可、ただし使用可能なもの

※一人で持ち運びが不可能な大型電気製品については、電話で042-330-5183(梅田 火・水・金のみ)まで事前にご連絡をお願いします。

※衣類や布ものは、新品同様またクリーニング済のもの、できれば若い学生向けの春・夏物を希望します。

送付先 東京外国語大学留学生課気付
東京外国語大学留学生支援の会
〒183-8534 東京都府中市朝日町3-11-1

TEL:042-330-5183

送料 宅配便等で品物をお送りいただく場合には、恐れ入りますが、送料のご負担をお願いいたします。「午後便」をご指定下さい。

■9月27日(日)は10時より直接搬入も可能です。その際は080-3080-3007(中嶋)までご連絡ください。搬入場所は国際交流会館になります。<9月26日(土)の搬入は不可。>

お願い バザーの人手が足りません!ご協力を!
バザー用品の物品仕分けや、準備・後片付けをする人手のご協力をお待ちします。

※お問い合わせ、当日のお手伝い・参加可能な方のお申し出は下記までお電話下さい。

TEL:042-330-5183 (火、水、金のみ、梅田まで)

お問い合わせ先

〒183-8534 東京都府中市朝日町3-11-1
東京外国語大学 留学生課気付 (梅田、谷川)
TEL:042-330-5183/5759
FAX:042-330-5189

<http://www.facebook.com/tufs.issa>

©Copyright 2014, TUFFS International Student Support Association

東京外国語大学 留学生支援の会

No.50

Since 1999

会報

会員の皆様、ホームステイやバザーにご協力ありがとうございます。
留学生から感謝の言葉が多数届いております。
今年も「国際交流の夕べ」(12月11日開催)で留学生と交流しませんか。

Pick Up
Event 2015

留学生支援の会の幹事になってくださる方はいらっしゃいませんか。
興味のある方、幹事の役割につきまして当会までお電話でお問い合わせください。

〒183-8534 東京都府中市朝日町 3-11-1 東京外国語大学留学生課気付 TEL 042-330-5183/5759 FAX 042-330-5189

<http://www.facebook.com/tufs.issa2>

FOCUS

1. 巻頭言

INSIDE

Page 1.	1. 巻頭言
Page 2.	2. ご挨拶
Page 3.	3. 活動報告
	3-1 歌舞伎鑑賞教室の報告
	3-2 夏のおもてなし~七夕茶会
	3-3 各国文化紹介 ~お茶とお菓子を通して
	3-4 国際理解教育
	3-5 秋期バザー
	3-6 地域交流
Page10.	4. ホームビジット&ホームステイ
	4-1 ふじのくに留学生ツアー
	4-2 受け入れファミリーと一緒に 帰国
Page12.	5. 留学生の声
	ウタに満ちた一年の留学記
Page13.	6. これからの活動
	国際交流の夕べ
Page13.	7. 会員の声
	戦後70年目の卒業証書授与

今、東京外国語大学にもとめられるもの

東京外国語大学副学長
岩崎 務

最近よく外大生に尋ねられます。

「留学はどの時期に行ったらいいですか。夏学期にはいろんな滞在プログラムがあるし、派遣留学も2年生から行けるようになったそうですけれど、先輩たちは3年の秋から行く人が多いし、それに、一番役に立つのは大学院に行ってからだからまず語学をしっかりとやれ、とも聞くんですけど……。いったいどれがいいんでしょうか。」

わたしはたいてい、こう答えています。

「迷う前に、少しでも機会があったら、まずはそれをとらえてさっさと行くのが先決。一刻も早く、パスポートひとつがかろうじて身分保証になる『外国人』の身分になることが大事だ。あとのことは行ってしまってから考えればいい。」

東京外国語大学では、ここ二、三年、ショートビジットのメニューを充実させ、協定校をどんどん開拓しているのですから、同世代のなかでただでさえ海外留学

に親和性が高かった外大生にとって、チャンスはさらに多様化し、いよいよ必須なものになってきました。

わたしが言う「まずは外国人になること」の効用は小さくありません。ほとんどの日本人の場合には(特別在留資格をもって日本にいる「在日」の人の場合はもうすこし複雑でしょうけれど、と断りをいれておきます)、ナショナリティやエスニシティを自明なものとしてそこに安心している状態から、留学は自分の身を引きはがしてくれる絶好の機会であり、それによって初めて気がつくことがたくさんあるはずです。

たとえば、ビザの問題などで入管関係の、どの国にいても決まって不親切で、似たりよつたりのささくれた雰囲気や漂う役所の列に幾度か並んでみれば、本で読むよりも何倍も早く、国民国家とその境界で働いている力を理解することができます。そうやって伸ばすことのできる力のなかには、語学力や地域事情の知識だけでなく、他者に対する「寛容」と「歓待」の力も含まれています。

つまり、そうした経験をしてやっとならば、こんどは逆に、日本に来ていた留学生の感じ方、不安な気持ち、そしてちょっとした歓待の姿勢に出会ったときのうれしさも実感できるはずなのです。留学生への適切な接し方は、自分自身が留学生になってみることで分かります。国外に出る外大生には、いま外大に学んでいる留学生たちの身になって、この大学の、この社会の光景が、彼ら、彼女らの目にどう見えているのかを想像たくましくしてほしいものです。その点で、東京外国語大学留学生支援の会のたゆまないご努力には、頭が下がります。

21世紀の最初の四半世紀に人の移動はますます拡大してきましたが、その他方で、それに対する反動が、外国人に対する排外的な感情や暴力として噴出する現象も世界各地で報告されています。これらの事件が、一過性の例外的な出来事に終わることを望みます。しかし「異邦人」をめぐる起こる反知性主義的な振る舞いが、深刻な政治問題にまで拡大し、たとえばEUでの難民問題のように、現在の秩序の根幹を揺るがす様相すら示すようになっていきますから、あまり楽観視しているわけにはいきません。

日本の社会にも類似の徴候があります。格差社会の深刻化とともに、「在日外国人の特権」などという根

拠のない妄想をことさらに作り上げて、自分たちの不遇感をヘイトスピーチとして叫びたてるひとたちが出てきています。

これは一昔前には考えられなかった醜悪な現象です。ほとんどの日本人はけっしてこうした行為を許容していないことは間違いないのですが、ともかくこの手の傾向が、グローバルな相互交流の確実な広がりとは並行して出てきていることはアイロニカルです。グローバル化に伴う変化がもたらす覚束なさの感じが、何かの理由でねじくると、この手の排外的な感情に凝り固まるのでしょ。

こんな時代であるからこそ、わたしたちの大学である東京外国語大学が共生と多文化理解の知的空間として、優れたパフォーマンスを果たしていくことが求められていると強く感じています。

2. ご挨拶

記念すべき会報50号をお届けします。
皆様のご協力に感謝いたします。

今再びの「メイド イン ジャパン」!

会長 中嶋 洋子

上記のタイトルを見て、ひと昔前の「メイド イン ジャパン」という言葉がはやり、海外での評判はあまり芳しくなかったことを思い出す方もいらっしゃるのではないのでしょうか?!

現在、堂々の「メイド イン ジャパン」について、ここにご紹介したいと思います。

●貝印の高級モダン包丁(商品名:「旬」)についてですが、海外のユーザーが「日本刀のように美しい」と感嘆する表面の波紋はダマスカス模様と呼ばれ、以前からあった技術とか。これは1丁ずつ職人の手で削って出すので簡単には製造ラインを増やせないそうです。

包丁と言えばドイツのゾーリングゲンが有名ですが、これは分厚い肉を切るのに適しています。

野菜や魚は和包丁(旬のような)が向いています。フランスの有名なシェフが貝印を訪れ「旬」の開発をコラボレーションしたのも彼のフランス料理が野菜にこだわるためだったそうです。「旬」は欧米を中心に1丁1万数千円という高価にもかかわらず、年間50万丁前後売れる人気商品。

●広島県安芸郡熊野町は江戸時代後期から、「筆の里」として知られ国内産の筆の約8割を生産しているとか。なかでも高級化粧筆の世界的メーカーである白鳳堂は最大規模、欧米企業向けも含め年間400万本以上を生産。ハリウッドスターや世界の著名なメイクアップアーティストたちがこぞって買い求めるといいます。

白鳳堂の社長は「1本の筆ができるまでに、およそ80の工程があり、そのほとんどが職人たちの手作業です。作業で徹底的に質の悪い毛を取り除いていくので結果半分しか残らないこともある。それをもったいないと思っていたら良いものはできません」と語ります。

職人達の緻密な作業で作られる化粧筆は「ピロードのように滑らか」と評価されているそうです。

基本的な化粧筆は1本が5,000円から12,000円と高価だが海外市場は大手顧客だといえます。

●次はヘルメットに関するお話です。品質検査のために壊すヘルメットの数はい年で約3000個。”世界一にこだわるSHOEI(昭栄化工)のものづくりを端的に表す数字です。

主力製品である二輪車向け高級ヘルメットは「プレミアムヘルメット」と呼ばれ、アメリカ市場で350ドルから900ドルで販売されるという。年間40万個以上を製造。

「多くのライダーに支持される理由は、第一に品質。身を守る安全性はもちろん、長距離走行での負担感、装着時のフィット感、視界の良好さ、密閉性や防音対策など、品質を測る要素はさまざま。しかし、実際に装着して走行すれば、その違いは明らかです。」と関係者は断言する。

品質重視の考えから、製品はすべて、岩手県と茨城県の工場生産される。

「製造過程の多くは手作業です。外殻の成形やグラフィックデザインの転写技術などは熟練の技。海外

に工場を移しても、すぐに同じ品質は出せないでしょう。」と会社側は言う。

●最後は、KENDAMAの技と職人についてお伝えします。

海外で注目された日本のブランドがあり、それは山形工場の競技用けん玉「大空」です。

職人さんたちがけん玉の部品を一つずつ手作業で加工している。棒状の「けん」、大小の皿がある「皿胴」、そして「玉」と「糸」がKENDAMAのパーツです。部分ごとにブナ、山桜を使用、高級品には欒(けやき)、えんじゅなどを使用、すべての素材も山形県など東北の木材です。

新製品が出ると、すぐに海外から大変多くの注文が入るといいます。

以上の例のように、現在の「メイドインジャパン」の商品は、世界的な評価を受けています。日本はこのことに誇りをもつと同時に甘んずることなく日々精進を続けていってほしいと思います。

※この原稿は雑誌、『文藝春秋』本年7月号を参考にさせていただきました。

REPORT

3. 活動報告

3-1 歌舞伎鑑賞教室の報告

日時:2015年6月7日(日)午後2時~4時30分

場所:国立劇場、ホテルグランドアーク半蔵門

参加者:留学生61名、日本人学生6名、

外大事務局2名、幹事6名(合計75名)

国立劇場の歌舞伎鑑賞教室に行ってきました。

留学生61名は今までで最も多い数です。日本の伝統文化に関心を持っていただくと言う意味でよい事と思いました。

国立劇場の場所は都内の三宅坂というところでは

皇居のお濠に面し静かな環境で伝統的な演劇を鑑賞するのにふさわしい場所といえます。

プログラムの最初は歌舞伎の見方の説明でした。

歌舞伎にはいろいろな決まりや習わしがあるので、歌舞伎を理解するためにはそれらをおある程度知っている必要があります。そこで若手の役者による歌舞伎の見方のわかりやすい説明がありました。歌舞伎の見方といってもいろいろありますが今回は女形(おんながた)について詳しい説明がありました。

よく知られているように歌舞伎は男性の役者だけによって演じられるので女性の役を演じる役者のことを女形と言うわけです。女形の人がどのような動作をするか、どのような化粧をするかについての詳細な説明は、留学生にとって大変珍しいことだと思いました。私も幹事にとっても初めて耳にするようなこともあり、興味深く聞きました。

女形の動作の説明の時、観客の中から2名の方が舞台上に招かれて一緒に動作を演じたので場内の雰囲気盛り上がりました。次の機会には留学生が招かれて舞台上に上がれば歌舞伎の国際化につながってもっと盛り上がるかなと思いました。

次は芝居「壺阪霊験記」の観賞でした。

この芝居はこのような筋です。目に障害のある夫と貞淑な妻との間で、夫が妻の善行を不貞と誤解したこ

とを悩んで自殺し、それを妻が後追い自殺する。しかし観音様のおかげで生き返り、目も見えるようになるという最高の夫婦愛物語でした。

留学生の皆さんも役者の優れた演技にじっと見入っていましたから、夫婦愛の尊さに心打たれたものと思います。一般に歌舞伎では武士が出てきていろいろな動作があるため、言葉が分からなくても事柄がわかることが多いかと思っていましたので、今回のような台詞のやりとりを留学生は理解できたかなと心配しました。しかし後で聞くと英語または日本語のイヤホンでよく分りましたということでした。留学生の歌舞伎見学で、よく理解してもらうためにはイヤホンは必須と言えると思います。

レストランでコーヒーを飲みながら懇談しました。

国立劇場の隣にレストランがあるので、そこで70名の人たちの参加を得てコーヒーを飲みながら歌舞伎の感想や芝居の意見、さらには留学生活等について懇談しました。歌舞伎は初めて見たけれど興味を持ったとか、夫婦愛は大切なものだとか、私の国にも伝統的な芝居があるとか、多様な話し合いが交わされ、相互理解と友好の促進に資することができたと思いました。

(幹事: 笹岡)



歌舞伎観賞教室に参加して

研究生
レティシア マリア
(ドミニカ)

4月に日本に勉強に来ました。日本へ来る前に歌舞伎を見たことがありませんでした。留学生と日本人学生は国立劇場へ行きました。公演の前に歌舞伎の舞台やメイクについての説明を受けました。題目は壺坂霊験記(つぼさかれいげんき)でした。テーマは愛と苦難についてでした。

歌舞伎は男の人だけが演じるので、びっくりしました。三味線と歌い方が大好きでした。とても面白かったです。

歌舞伎が終わった後、皆で隣のホテルに行きました。そこで、コーヒーやお茶を飲みながら、話をしました。そしておいしいケーキを食べました。この日はとても楽しかったです。だから、私は東京外国語大学留学生支援の会にとっても感謝しています！

3-2 夏のおもてなし ～七夕茶会～

裏千家茶道倶楽部
スペイン語専攻2年
堀川真理子

裏千家茶道倶楽部では、毎年7月7日の七夕にちなみ、七夕茶会を開催しています。

このお茶会は、留学生に日本の伝統文化である七夕と茶道を気楽に体験していただくことを目的としています。今年は6月30日に行い、23名のお客様がお越しくださいました。

当日はお点前を、亭主、半東(はんとう)、お客様の全員が椅子に座る「立礼(りゅうれい)」という形にし、正座が苦手な留学生の方にもお茶会を楽しんでいただくために工夫しました。お菓子は夏らしく涼しげな水饅頭を、お花は竜胆を用意しました。茶道のもつ独特の緊張感を残しつつも、部員とお話をしながら、お菓子を食べたりお茶を

飲んだりして、楽しく、和やかなお茶会だったと思います。

留学生の方々はお点前をする亭主の姿をカメラで撮影したり、半東のお道具の説明に耳を傾けたりして思い思いにお茶会の雰囲気を楽しんでいらっしやるようでした。

また、留学生に七夕を体験していただくということで、待ち時間等を利用して皆で短冊に願い事を書いて笹の葉に飾りました。最初は何を書いたら良いのかわからないといった様子でしたが、どのような願い事でも良いと伝えると、皆さんそれぞれの願い事を嬉しそうに書いていらっしやいました。

その他にも、部員と共に折り紙をしたり、留学生に実際にお茶を点てていただく茶道体験のコーナーを設けたりして交流を深めつつ、夏の日本文化を楽しんでいただきました。

さらに七夕茶会では、留学生に日本の夏の風物詩を体験していただくために、部員が浴衣を着用するのはもちろんのこと、留学生の方たちにも浴衣を着ていただきました。色とりどりの浴衣に身を包み、嬉しそうに写真撮影をしている姿は、とても華やかで素敵でした。



七夕茶会后に、留学生の皆さまから感想をいただいております。浴衣や茶道の体験にとっても喜んでくださり、「お茶がおいしかった」、「初めて浴衣を着てうれしかった」とのお声をいただきました。また、「日本の伝統的な茶道を体験して勉強になった」、「茶道は日本にとってとても大切だと分かった」などのお声もあり、短い時間の中でも日本の伝統文化に興味を持ち、楽しんでくださったようで嬉しいかぎりです。

この七夕茶会を通して日本の伝統文化の、茶道の素晴らしさを感じていただけたら、また、「自分も茶道をやってみよう」と思ってくれる方が少しでもいらっしゃれば幸いです。

最後になりましたが、このたびの七夕茶会に際しまして、東京外国語大学留学生支援の会の皆さまには多くのご協力を賜りました。大変感謝しております。本当にありがとうございました。

3-3 各国文化紹介—お茶とお菓子を通して 留学生と日本人学生の交流会

日時：2015年10月21日（水）11時50分～14時

会場：アゴラ・グローバル1階

参加国：アルメニア、アゼルバイジャン、シリア

各国文化紹介を10月21日（水）、アゴラ・グローバルにて、約200人近くの学生の参加をもって開催しました。

最初に斎藤弘子副学長から、留学生支援の会のお茶とお菓子のイベントで様々な国を知り、学生同士が交流し互いに理解を深めるよい機会としてくださとの挨拶がありました。

お茶とお菓子をもてなしてくれた3カ国は、アルメニア、アゼルバイジャン及びシリアです。3カ国とも中東に位置し、アルメニアとアゼルバイジャンは隣接しています。

アルメニアは、女子はクッキングの科目があり、男子は18歳で軍隊に入隊するために軍隊的な科目があります。高校は理科系と文化系に分かれて勉強をし、大学進学率は日本(53%)より少ない45%、通学でき

ない生徒のための遠隔教育が行われているなど、教育制度について紹介がありました。

シリアは今戦争のイメージが強いが、文明の発祥地で、砂漠の国ではなく、雪も降り花もあり春秋もあり、四季があります。首都のダマスカスは一番古く8千年前からある都市。刃を造ることで有名、ダマスコという布を織り、アルハミディアというスーク(市場)は屋根があり、オールドダマスカスは寺から教会になりモスクになって金色に輝いています。お酒は飲めるし、ラクダは見たことはないが肉は食べたことがあると、笑わせながら話がありました。ジャスミンは国の代表的な花であり、世界遺産が多く、ISによって壊されたが有名なパルミラ遺跡、アルファベットの元になったオガレット文字を発明、アレppoは経済都市で、オリーブの石鹸が有名との紹介もありました。

アゼルバイジャンは、ガスと石油が豊富であるため、火の国と言われ、海の中にもガスと石油があります。国旗の三つの色について、青は民族、赤は近代国家、緑はイスラムの意味があるとの説明をしている最中に、飾ってある万国旗が上から落ちてきて、タイミングのよさに声が上がりました。首都のバクーは歴史的に豊かであり、新しい都市として発達しています。カーペットは若い女性が織り、料理の特徴としては肉と果物の組み合わせで美味しいです。大事な祭りが4つあるが、中でもノウルズという正月の祭りは盛大に行われると紹介がありました。



アルメニアは「ミントティ」と赤い豆入りのサラダ「ビネグレット」。シリアは「クミン&レモンティ」、米と牛乳の「ライスプリン」、香辛料の効いた「ザータル」というお菓子和「ビスタチオ」。アゼルバイジャンは「アゼルバイジャンティ」、パンにのせる、バターと小麦粉を練り、砂糖と水を入れて焼いた「ハルヴァ」。そして、アルメニアとアゼルバイジャンは、「バクラバ」というパイのお菓子も加えて、各国のメニューが揃いました。

各国のお茶とお菓子をいただき、サンドイッチ、巻き寿司を口に入れながら、留学生と日本人学生の歓談、交流が始まりました。参加者が多く、テーブルを囲んで留学生と日本人学生との間で、話が盛り上がっていました。

アゼルバイジャンのバクーに魅せられて 10 日間旅をした日本人学生の話聞き、跳びあがらんばかりに喜ぶアゼルバイジャンの留学生。ガーナの留学生とイタリアの服装について話す日本人女子学生。民族衣装を着たウズベキスタンの留学生の写真を見て、実際に見たかったと残念がる日本人学生。バリ島の名は知っていてもインドネシアだとは知らない日本人が多い、というインドネシア留学生。インドネシアでの高速鉄道施設の受注は中国に決まり、競争に負けた日本の話では、留学生は「アア、ごめんなさい」と言い、「新しい大統領は多くの島々の全国民に利益を施したいとの願いがあり、民間を採用した」と説明していました。

120 年くらい前にエルトゥール号が和歌山県串本沖で台風により遭難したとき、69 人のトルコ人を救い、日本の艦船2隻でトルコに送ってくれたこと。トルコが 30 年前のイラン・イラク戦争でイランに取り残された 200 人以上の日本人をトルコ航空機で救出したこと。親日国トルコの留学生が、その二つの事件をトルコ・日本で共同製作した映画が公開されるとの話を交わしていました。

アルメニアのミントティもパーフラワもビーンズ入りのビネグレットも美味しい。シリアのクミン&レモンティもライスプリンも美味しい。ザータルはカレーパンのようで香辛料が効いて香りがよい。一方で香りと味が口に合わなかったという学生もいました。アゼルバイジャンティもハルヴァも美味しかったという声が聞かれ、各国ともとても美味しいとの声が圧倒的に多かったです。但し、お茶とお菓子を通しての交流なので、国の紹介時

に作り方を説明してもらいたいとの意見がありました。

どの国の留学生も自国に興味をもってほしいとの思いがあり、自分の国の話をされると目が輝き、にこやかな笑顔に変わっていき会話に花が咲きます。留学生と日本人学生とがそれぞれ交流ができていたと感じられ、この催しの本来の目的が達せられていたとの感想を受けました。

これからも、多くの国からの留学生が在学しているこの外国語大学の特徴をさらに有意義に生かしていきたいと考えています。

(幹事:小松)

3-4 国際理解教育

東京都町田市立真光寺中学校の 国際理解教育への留学生派遣

日時: 2015 年 7 月 4 日(土)

留学生: 5 名(ネパール、ウズベキスタン、中国、韓国)

内容: 中学 1 年生を対象に自国の紹介

7 月 4 日、本年度も町田市立真光寺中学校の学校行事「国際交流の日」の 1 年生の分科会に、留学生が参加しました。

テーマは「Over languages～国境を越えて～」。

1 人約 15 分でパワーポイントを使用し発表を行いました。

国の概要、文化、衣・食・住などの説明に加え、ネパールのプルナさんはヒマラヤの山々の絵はがきを生徒に回しました。

ウズベキスタンのディンさんは国旗を持参し意味を詳しく説明しました。

中国の任さんは中国語の“上下左右”の読みを教え、目隠しをした生徒に他の生徒が指示をして、黒板に顔を書かせるという福笑いな遊びを行い、大盛況でした。

韓国のジョンさんとホンさんは調味料コチュジャンの試食と、説明したことに関するクイズを出し、正解した生徒に韓国海苔と生徒の名前を韓国語で書いた紙をプレゼントしていました。

留学生たちは生徒さんの反応がとても嬉しかったと話し、貴重な機会に参加できたことを喜んでいました。

昨年も引率しましたので、毎年工夫を凝らした発表を準備してくれる留学生たちには感心します。彼らの何事にも真面目に楽しく取り組む姿勢に、私も色々と感じ、教えられる事が沢山あり、留学生の活動に関わる事が出来て良かったと思っています。

(幹事:利光)

3-5 秋期バザー

2015年秋期バザーへのご協力 ありがとうございました

東京外国語大学留学生支援の会

今年の夏は、酷暑に、大雨、台風多発と、異常気象に悩まされましたが、皆様いかがお過ごしでしたでしょうか？

この秋学期には160名の新入生が入学してきましたが、9月28日の入学式には、新入生たちを歓迎するかのよう、前日の雨が上がり快晴でした。

今季のバザーは従来よりも早く、9月29日(火)～30日(水)の2日間、従来通り国際交流会館2号館交流ホールで開催しました。

開催前2週間ほどの短期間に、毎回送ってくださる会員の方に加えて、新会員の方々、近隣、地方の会員の方々から、たくさんの品々が届きました。これに加えて、今回は外語会の方々からのご援助や、会館チューターの協力もあり、品物が溢れんばかりでした。

この秋も、寝具、タオル、電気釜、トースター、電子レンジなど、新しいものも多くありました。台所用品、食器などの日用品、それに洋服、着物、靴・バッグなども、たくさん送っていただきました。また、机や本箱、電気スタンドなど、卒業する留学生がバザーで買った物を、また後輩にと、残していったものも多くありました。自転車も6台頂きました。

一番人気は、やはり電気釜、電子レンジ、電気ポット、自転車、寝具などです。今回は、人気の品物には事前に値段に少し差を付けてありましたが、1日目の12時前に入口に列を作り、開場と同時にワッと電機製品と寝具の場所に走り求める学生、ゆっくり眺めて色々手に取り、バザーを楽しむ学生等、2日間で200人以上の参加者がありました。

来日してすぐの留学生たちは、「新しい生活を始めるのに必要なものが、バザーでそろえられることがとてもすばらしい!」と、寝具、タオル、日用品、文房具はもちろん、衣類も可愛いものを色々選んで、喜んで持ち帰りました。

人気のある電気製品と自転車は、くじ引きで当たった人の手に渡りました。当たった学生は、飛び上がらんばかりに喜んでいました。

今季は、日本人形がなく、飾ってあった大学の人形を欲しがる学生もいました。バック、食料品なども、ほとんどがなくなりました。最近、本を求める学生が少なくなりましたが、それでも、日本の歴史の本、児童文学等読みやすい本は欲しいようです。

なお、残ったものは春のバザーに回すことに致します。

なお、今回は電気製品、寝具は高く1,000円、他はすべて100円(小さな物はまとめて)、書籍類は無料としました。

バザーの収益金は、125,000円でした。

* いつもながら毎回、送料もいとわず、様々な品物を提供して下さった会員の皆様には、留学生ともども心から感謝申し上げます。

(幹事:梅田)

ご意見、感想など、会報への
投稿募集 どんどん
お寄せ下さい



留学生支援のためのバザー参加記

ISEP

JIA QIUHUA

(中国)

長い待ちの時間を経て、ようやく東京外国語大学の入学の日が近づきました。

私は9月27日に日本に到着しました。日本はどんな国なのか、日本人は親切なのか、日本での生活はどうやって順調に過ごせるかと色々緊張していました。

学校の前のコンビニに行行って買い物したところ、値段の高さに驚きました。そして、ものには使い方がありますが、よくわからなくて非常に困ったのです。

28日の入学式で、明日留学生支援のためのバザーがあると聞いて、参加してみようと思いました。

バザーは私の住んでいる一号館の隣の二号館にあって非常に便利でした。二号館に入って、まずものの多さに驚きました。寝具、布団、電気製品、テレビ、冷蔵庫、衣類、台所用品など色々ありました。そして、多くの留学生もそこで、買い物をしていました。

次に驚いたのはものの安さでした。コンパスでは新しいルーターは4300円以上ですが、ここでは100円で買えました。タオルや布団とかも200円でいっぱい買えました。そして、多くの本や、衣類はただでもらえました。

しかし一番驚いたのは日本人の親切さと心の細かさでした。バザーの先生がとても親切で、色々アドバイスしました。もし、ものの使い方が分からなくて、先生に聞いたら親切に説明してくれました。

日本人の生活を知るいいチャンスでもあります。私は意外な収穫もありました。そこでいっぱい留学生の友達できました。

私はそこでいっぱい生活用品を買って、日本人の先生の親切さを心に持って、新しい友達と一緒に帰りました。

この活動を経て私はいっぱい生活用品を手に入れただけでなく日本人の優しさを直接感じて、多くの友達もできて、日本に到着したばかりの緊張が一切消えました。

本当に助かりました。これからこの東京外国語大学留学生支援の会の活動がもっと盛大になることを心から祈っています。



3-6 地域交流

「府中市クールエコの集い」に参加して

ISEP

洪 イェジン

(韓国)

8月1日、ちょっと暑かった日、府中市の「クールエコの集い」という行事に参加して参りました。

この行事には東京外国語大学の留学生10人くらいが参加し、浴衣ファッションショーと打ち水を行うことになりました。浴衣を着てみてみたくて、参加することを決めたので、他のことはあまり気にしておりませんでした。実際に行ってみたらちょっと緊張しました。

みんな派手な浴衣に着替え、ヘアスタイリングをしてもらって準備をしました。イベント会場に行ったら子供やお年寄りのファッションショーが始まっており、いろいろな人が集まってそれを見ていました。

私たちも舞台上がり、無事に役目を果たしました。その後、ちょっと休んでから打ち水をしました。漫画やドラマなどで打ち水をする姿を見たことはありますが、何故するのかは分かりませんでした。司会者様のお話を聞いたら、打ち水をして、その周辺の温度を下げるそうです。

私が渡されたものには水が結構ありましたので、早く全部打つようと頑張った記憶があります。結構多い人数の人が一緒に打ち水をし、行事は終わりました。最初はちょっと心配しましたが、終わった後に考えて見たら、みんなでこういうことをするのはなかなか体験できないことですので、結構面白い経験だったと思います。

夏休みの間に夏らしいことをしたのはこれくらいでした。今は寮に住んでいますので、部屋の前で打ち水はできませんが、またやってみたいと思います。

**会員の皆様ひとりひとりが
留学生の笑顔をつくります！**

EXPERIENCE

4. ホームビジット&ホームステイ

4-1 ふじのくに留学生ツアー

富士山麓や駿河湾をめぐるツアー

留学生9人が参加して開催

静岡県沼津市などの有志でつくる「ふじのくに留学生支援の会」(松下宗柏代表)が、8月1日(土)~3日(月)に「ふじのくに留学生ツアー」を実施しました。

8月1日(土)

沼津駅北口集合、バスにて移動

三島市文化センター前「おう・ふらんす」にて昼食

源平川せせらぎウオーク、水泉園

柿田川湧水公園散策

長興寺に着いてお抹茶を一服

座禅体験

長興寺にて夕食(魚がし鮭の海鮮丼または天井)

原・浮島ふるさと夏祭り、花火見学

長興寺に戻ってから各ホストファミリーへ



8月2日(土)

長興寺に集合

田貫湖畔散策

富士朝霧高原「もちや」着

餅つき、ソーメン流しの昼食

白糸の滝

長興寺に戻ってから各ホストファミリーへ



8月3日(日)

長興寺に集合

三津浜海岸・長浜城跡散策(海越しの富士山)

伊豆長岡温泉・ホテル天坊、バイキング昼食+温泉

沼津駅北口着

新宿行き高速バスにて帰路へ



(↑8月2日白糸の滝前で撮影)

(↓8月2日付静岡新聞伊豆・東部地域面から転載)

平成27年(2015年)8月2日(日曜日) 東 地域 東
 伊豆 飛田 尾根

伊豆・東部



【沼津】留学生が心静かに座禅や茶道
 東京外国語大の留学生が沼津市内などで日本文化を学ぶ「ふじのくに」留学生ツアーが1日、

2泊3日の日程で始まり、同市大塚の長興寺では留学生が座禅や茶道を体験した。写真。ツアーは同寺住職の松下宗柏さんが代表を務める「ふじのくに」留学生支援の会が主催し、中国やロシア、インドなどの留学生9人が参加した。座禅では松さんが「吐く息に集中することが重要」と説明すると、参加者は目を閉じて足を組み、静かなひとときを過ごした。オーストラリア出身のドゥ・アイズさん(23)は「座禅は形ではなく精神的なことを大切にしている。日本文化は奥深い」と話した。2日以降は、富士宮市の白

まちトピ

糸の滝や沼津市の長浜城跡を散策するほか、餅つきや流しそうめんも体験するという。

4-2 私の帰国——ホームステイ 受け入れ家族と一緒にウクライナへ

言語文化学部2年
 ドチェンコ・リュボフ
 (ウクライナ)

今年の春休みに関西を案内してくれた藤岡さんと奥様が今回私と一緒にウクライナへ行ってきました。

藤岡さんはウクライナへ行ってみたいと言っていたから、母が飛行機のチケットを予約して、毎日の詳しい計画を立ててくれました。

私たちは9月2日、成田空港を出発しました。乗り換えはトルコのイスタンブールで、日本からウクライナへ合計18時間ぐらいかかりました。ウクライナで私の家族、両親と弟と妹が皆迎えにきてくれました。これは最近2年半で私の最初の帰国でした。

もう夜だったので、まず藤岡さんたちをアパートへ連れていきました。そこで当日出来上がりの弟の手作りピザを食べてから、私たちも家に帰りました。

時差ボケが感じなかったので、朝起きて早速ウクライナの首都キエフを案内しました。私も前に行ったことがなかったところへ行って面白かったです。

そして、久しぶりに食べたウクライナの料理はとても美味しかったです。藤岡さんたちのアパートの近くに安くいいレストランがあったので、そこで何回か昼御飯を食べました。

リヴィウの観光はとてもよかったです。リヴィウはウクライナの文化の首都といわれて、ヨーロッパに近い雰囲気都市でした。私はそこへ日本に来てからとても行きたくだったので、今回実際に行けてとても嬉しかったです。そこへは夜行列車で行きました。私と母と兄弟は藤岡さんたちと別のアパートを借りていました。2泊3日だけの滞在でしたが、沢山観光できて、沢山美味しいものを食べてとてもいい思い出になりました。

リヴィウといえば、ゆっくりコーヒーを飲める喫茶店が多いです。そして古い町の部分は道が石畳で建物は大体4階建てできれいです。ガラス博物館と薬局博物館も行きました。

リヴィウから帰ったら母のお兄さんが藤岡さんたちを家に泊めてくれました。私たちの家にも寄って、おばあちゃんと会いました。

藤岡さんたちが日本へ帰ってから私はあと10日間ぐらいウクライナにいました。久しぶりに友達と会えて楽しかったです。

帰るとき母から沢山チョコレートとお菓子をもらいました。毎日少しずつ食べています。やはり帰国してよかったです。



VOICE

5. 留学生の声

ウタに満ちた日々

♪一年間の留学記♪

日研生

ミラディノヴィッチ・コスタ
(セルビア)

2014年9月24日、来日したばかりの私は、多磨駅方面から並木に沿って、東京外国語大学の国際交流会館3号館へと近づいていく。一年の留学で「家」と呼ぶようになる寮へ。秋風がそよそよと吹いている。携帯からラルクアンシエルの「Daybreak's Bell」が流れている。いい一年になりそうだ。

もう日本語留学生センターでの授業は始まっている。新しい人との出会いが多い。何回も同じ人と一緒に授業があった。縁があるだろうと思う。授業は決して難しくない。内容が分かりやすく、先生たちが優しく教えてくれる。昼休みに隣の食堂へ行って、エネルギーを取り戻すため、一口でもいい、カレーライスを食べたい。やはり一口では足りないと思い、大にした。おなかがいっぱい。ヘッドフォンからGRreeeeNの「キセキ」が流れてくる。

内向的な私は友達がまだ出来ていないので、一人で食べている。急がねばならぬ。漢字の授業がそろそろ始まるから。教室へ戻ったら、一目惚れをした。先に惚れてしまった私の負けだ。帰り道にレミオロメンの「粉雪」を口ずさんでいる。

もう外語祭の時期が来た。久々に肉料理を食べた。トルコ語科の店のケバブだった。セルビア料理ほどではなかったが、美味しかった。セルビアの料理が食べたくなった。東京にはセルビアの料理店がない。傍らで友達が「カンガルー・バーガー、食おう」と言って、私の背中に手を当て、押した。肉だから、文句は言わない。外語祭の最終日に、久々にカラオケに行った。練習したいので、一カラだった。十八番の「津軽海峡・冬景色」がカラオケ部屋に響いた。

待ちに待ったコミケの日がやってきました。人混みを恐れている私は、人混みに流されることを心配している。

しかし、傍に日本人の友達が付いているので、安心だ。コスプレはすごい！グッズはすごい！東京デザイナーズウィークのアンドロイドなどもよかったが、コミケは言葉に出来ないほどすごい！決めた！夏コミに必ず行く！無限に広がる海のような人混みを恐れずに。成長したと感じた。帰りの電車でコブクロの「轍」を聴いている。

2015年2月下旬ごろ。試験は終わった。することは少ない。暇だ。カラオケの仲間は旅の途中だ。自分も行きたいが、コミケでお金を使ってしまったので行けない。それでも構わぬ。修了レポートを書かなければいけない。研究のために11月に始めたサイドプロジェクトを続けている。毎日日本の歌を一曲フェイスブックに投稿する。もう170日目の歌を過ぎている。B'zの「イチブとゼンプ」も久しぶりに聴いた。

いよいよ修了レポートの発表会が近づいてきた。それも無事に終えた。卒業したということだ。発表会後の嬉しさは言葉に出来ない。その夜は湘南乃風の「睡蓮花」を何十回も聴いた。

8月の初旬に特定非営利活動法人ACC・希望のスタッフメンバーとして、東日本大震災による原発事故後のストレス下にある子供たちの心身を保養するため、ボランティアで福島県に行ってきた。子供たちが大切なことを教えてくれた。大人でも何もかもを忘れ、羽根を伸ばさねばならぬ。ボランティア活動の中でジブリの名曲「いつも何度でも」を唄った。

東京に帰ったら、肺炎になった。それにもかかわらず、夏コミには行った。ほとんどの友達がもう帰国した。カラオケの仲間も帰国した。キミも帰国した。きのこ帝国の「東京」を思い出す。

2015年9月23日、場所は、成田空港第1ターミナル41ゲート。アブダビ行きフライトを待っている。フライトまであと一時間余りある。この文章を書いている。ほかにも言い尽くせないことがあるが、記憶・心に残った瞬間だけを記す。そして、約束したので、俳句を詠む。

「秋風や / 涙零れる / 別れ人」

そんなにいい俳句ではないが、一応。誰にも聞こえないようにランクヘッドの「東京にて」を口ずさんでいる。

ACTIVITIES

6. これからの活動

「国際交流の夕べ」

12月11日(金)

今年も！恒例の留学生との交流を是非お楽しみください。会員のご参加をお待ちしています。

「国際交流の夕べ」

日時:12月11日(金)17時45分～20時

会場:校内学生食堂

費用:無料

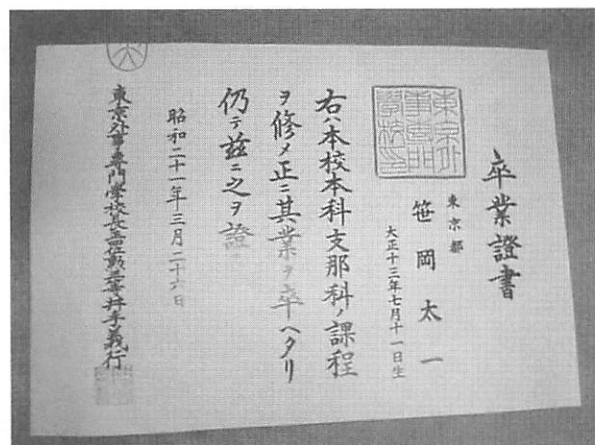
どなたでも参加できます。なお、午前中より、着付け・書道・折り紙などの日本の伝統文化体験を諸会場にて実施します。

VOICE

7. 会員の声

人生の区切りをつけられる

～戦後70年目の卒業証書授与～



(↑このたび笹岡さん受け取った卒業証書)

留学生支援の会の副会長を務める笹岡太一さんが、10月31日、本来なら70年前に受け取るはずだった東京外国語大学（当時は東京外事専門学校）の卒業証書を受け取りました。

笹岡さんは、支援の会の要として活動しているほか、留学生ツアーの現地案内図を、お得意の絵を使って毎回作成しています。今回は会員の皆さまへ最新の作品を披露します（次のページに掲載）。

↓ 読売新聞 2015年10月15日付夕刊から転載

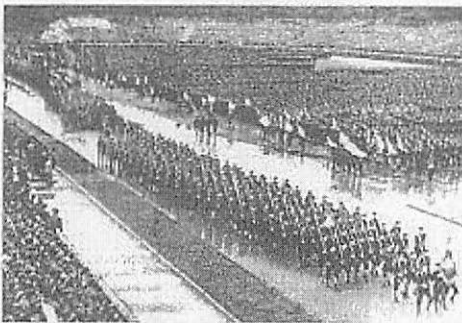
（幹事：近藤）

（朝日新聞提供）

2015年(平成27年)10月20日(火曜日)

夕刊 言

元学徒 90歳の卒業証書



東京外大、12人に

授与されるのは12人で、このうち2人はすでに亡くなっていて、いずれも1944～46年の卒業生だったが、卒業を前に入隊したり、戦後の混乱に巻き込まれたりして卒業式に出席できなかった。

同大は、45年4月の城北大空襲で旧滝野川区（現北区）の校舎が焼失。卒業式は44年は実施されず、45、46年は実施されたものの出席者が少なかった。戦後50

年に合わせて調査を行い、94～95年、連絡の取れた計123人に証書を授与した。

今回は戦後70年を機に改めて調査し、20年前は連絡がつかなかった10人が名乗

学徒出陣で卒業式に出席できなかった元学生らに、東京外国語大学（東京都府中市）は31日、卒業証書を授与する。同様の取り組みは戦後50年の節目などに他大でも行われたが、卒業生が高齢となった近年はほとんど実施されていない。同大は「事実上、これが最後の機会。証書授与をきっかけに、在学生らに悲惨な戦争の記憶を引き継いでいきたい」としている。

31日授与式 「事実上、最後の機会」

戦後70年

学徒出陣 戦局悪化に伴う兵力不足を補うため、1943年10月、理科系などを除き、20歳以上の学生・生徒の徴兵猶予を停止。10月21日、明治神宮外苑競技場で出陣学徒約2万5000人を集めて壮行会が開かれた。徴兵学徒は10万～13万人とされるが、正式な記録はない。

10人は全員90歳以上で、出席できるのは2人。立石博高学長は、「苦勞された方々に感謝の気持ちを含めて渡したい」と話し、在学生との懇親の場も設けるという。

他大では、慶応大が69年、一橋大が74年に、それぞれ戦時中の卒業生らに卒業証書を授与。法政大や中央大、立教大も戦後50年などを機に証書や証明書を授与している。

亡き仲間の方も受け取りたい

「この年で人生の区切りをつけられる。大変ありがたい」。31日の授与式に出席予定の笹岡太一さん（91）（東京都豊島区）は、戦後70年での「卒業」を心待ちにする。

1943年4月に東京外大の前身の東京外国語学校支那語（中国語）部に入學。45年1月に徴兵され、香川県にあった陸軍の船舶幹部候補生隊に配属された。

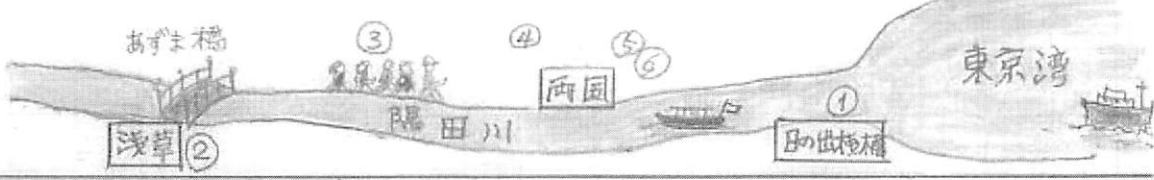
同年9月には部隊に配備される予定が、終戦で除隊。東京に戻って46年3月に大卒を卒業したが、戦後の混乱の中で卒業式への出席はかなわなかった。生活難で大学の研究科（大学院）も中退し、文部省（現文部科学省）に入った。今年になって、同大から卒業証書を受け取っているかどうか尋ねる封書を受け取った。「卒業証書ももらえないままになった仲間も、もっと勉強したかった人もある。その人たちの『思い』を背負い、受け取りたい」と話している。



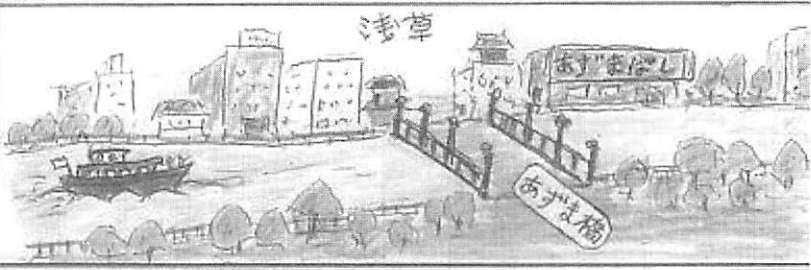
●今から72年前、学徒出陣の壮行会が雨の中、明治神宮外苑競技場で開催された（1943年10月21日撮影）●卒業証書を受け取る（左）になり、ようやく区切りがつけられる」と話す笹岡太一さん（東京都豊島区の自宅で）

東京下町文化体験ツアー(隅田川・浅草・両国)

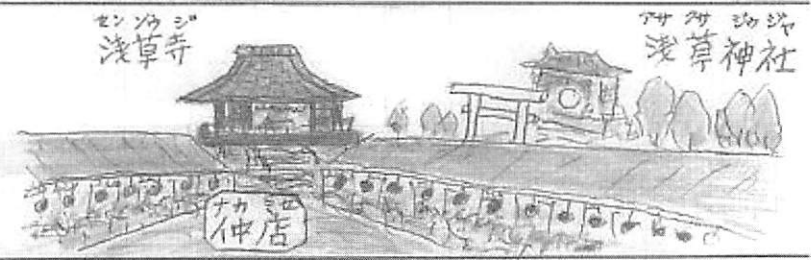
2015.12.6(日)



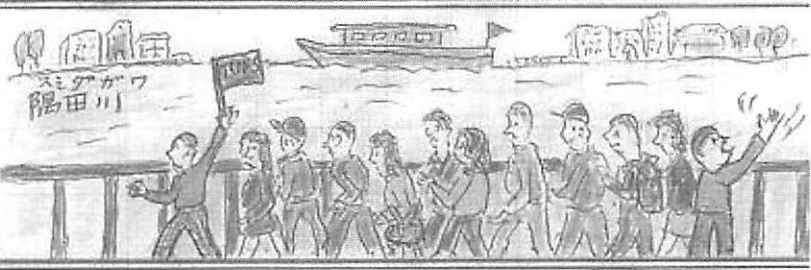
①
サンパン
日の出桟橋から
船で浅草あずま橋へ



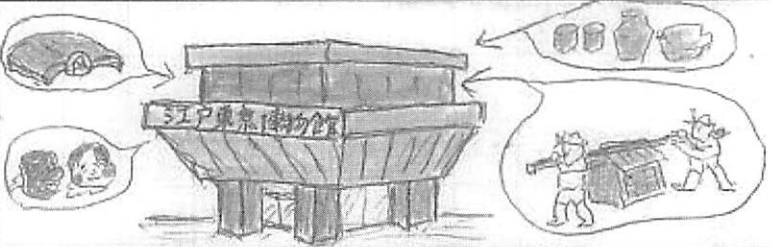
②
浅草寺、浅草神社、
仲店(伝統的商店)の見学



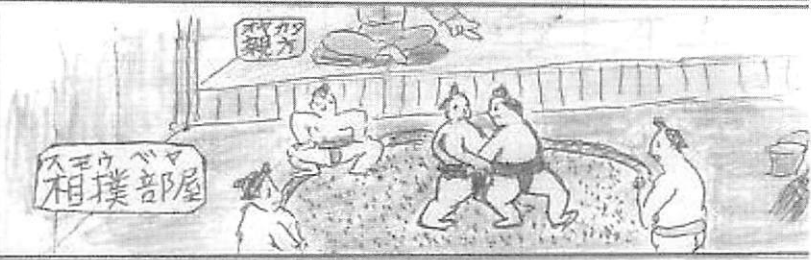
③
浅草からウォーキング
で両国へ



④
江戸東京博物館
の見学



⑤
スモウバヤ
相撲部屋の見学



⑥
相撲料理
ちゃんこ鍋会食



**ご入会、ご寄付
ご協力いただき、ありがとうございます**

新規加入者

■一般会員(平成27年5月28日～11月5日)
加藤きよみ、末次透、竹津照子、古川賢志、渠悦寧
(敬称略)

会員寄付者

■一般寄付(平成27年5月28日～11月5日)
会津洋、浅野尚文、安藤弘行、池田修晤、板久恭子、
井上東一、上野幸江、大塚定、片岡護、河野喜代子、
木全玲子、挙市玲子、小島照恵、五島大介、小林浩、
五味和行、坂本恵、新堂睦子、鈴木文子、鈴木正道、
寺田朗子、西 由美、野中千恵子、野本京子、
長谷川雄一、本望春夫、松下宗柏、矢部美保、
横田淳子、吉田展子、渡辺恵子 (敬称略)

※万一お名前に間違いがありましたらお詫びいたします。
その節は、当会までお知らせくだされば幸いです。印刷で
きない外字等、ご了承ください。

**10月21日現在
会員数：990名**

すべての活動は、皆様の年会費とご寄付で行われてお
ります。本年度会費を同封の振込用紙にてお振込くだ
さいませ、お願い申し上げます。

※ ひとりでも多くの方々の早期納入のご協力をお願い
致します。

一般会員：年会費 3,000円
協賛会員：年会費 20,000円

平成27年度 会費納入のお願い
平成28年3月31日まで受付

※来年度の活動ご支援いただくためにも、是非会費納
入のご継続をお願い申し上げます。納入をお忘れの方
は本年度会費を同封の振込用紙にてお振込ください。

幹事会

下記のとおり幹事会を開催しました。
平成27年9月27日(日)
平成27年11月1日(日)
平成27年11月28日(土)

会員の皆様へ

ホームステイ受け入れのお願い

新しく受け入れてみたいとお思いのご家庭がござ
いましたら、下記までご一報ください。お待ちしております。
(幹事:梅田由美子)

連絡先:留学生支援の会

東京外国語大学留学生課

電話:042-330-5183、Fax:042-330-5189

(火、水、金のみ、梅田まで)

Eメール:umeda_yumiko@tufs.ac.jp

**会員の皆様へ 会報50号発行達成の
お礼と、原稿投稿のお願い**

多くの会員の皆様に支えられて、50号となる会
報を発行することができました。ありがとうございました。
当会報には「会員の声」というコーナーがご
ざいますので、留学、留学生に関する情報やご意
見をお寄せいただき、今後もお支えください。

原稿はEメール添付、もしくは下記住所への郵
送をお願いいたします。(幹事:梅田由美子)

Eメール:umeda_yumiko@tufs.ac.jp

[お問い合わせ先]

〒183-8534 東京都府中市朝日町3-11-1
東京外国語大学 留学生課気付(梅田、谷川)

TEL:042-330-5183/5759

FAX:042-330-5189

<http://www.facebook.com/tufs.issa2>

©Copyright 2014, TUFUS International Student Support Association

東京外国語大学 留学生支援の会

No.51

年3回発行

Since 1999

会報

春のバザー開催！3月30日(水)～4月5日(火)バザー用品募集します！！
ボランティア募集！バザーの人手が足りません。(詳細12ページ)

Pick Up
Event 2016

留学生支援の会の幹事になってくださる方はいらっしゃいませんか。
留学生の笑顔を作る活動です。興味のある方は当会までお電話でお問い合わせください。

〒183-8534 東京都府中市朝日町 3-11-1 東京外国語大学留学生課気付 TEL 042-330-5183/5759 FAX 042-330-5189

<http://www.facebook.com/tufs.issa2>

INSIDE

- Page 1. 1. 巻頭言
野本京子 大学院国際日本学研究院教授
- Page 2. 2. ご挨拶
中嶋会長 (留学生支援の会)
- Page 3. 3. 活動報告
 - 3-1 東京下町文化体験ツアー
池村幹事 (留学生支援の会)
モウシン (中国)
山西弘朗 (日本)
 - 3-2 国際交流事業
梅田幹事 (留学生支援の会)
 - 3-3 国際理解教育
利光幹事 (留学生支援の会)
陳少潔 (中国)

Page10. 4. これからの活動

Page12. 春期バザーのお知らせ

FOCUS

1. 巻頭言

留学生とともに歩んだ日々

大学院国際日本学研究院 教授
野本京子

最近、学生に「先生、今年いっぱい定年なんですよね？」と何度か尋ねられました。すぐに「まだ辞めさせないでね。あと一年いるから、あなたたちの授業も持ちますよ」と答えています。そして、「あーあ、ずいぶん長い間、いたのだな」と実感する日々です。

1988年4月に着任してしばらくの間、他専攻の先生から、留学生に何語で授業をしているのかという質問がありました。それが何年か続くとさすがに「ウーン…。もう少し学部留学生のこともちゃんと知ってほしい」と思いました。

とはいえ、留学生だけではなく、日本語学科(当時)で学ぶ日本人学生に対しても、「なぜ日本人が日本語を学ぶの？」といった問いがしばしば投げかけられたようですし、この質問はまだ無くなったわけではありません(大学史にかかわるリレー講義で、受講生に質

問するとよく分かります)。

なお、事務体制でいいますと、当時はまだ留学生課はなく、「留学生係」というセクションがありました。卒業生の名前をどれだけ覚えているのだろうと驚嘆した石川さん(故人)や、今も留学生支援の会を支えている梅田さんが、学生一人ひとりに本当に親身になって対応していたことが、つよく印象に残っています。

私も毎年のように、留学生スキーや旅行に参加し、楽しい時間を過ごしました。梅田さんをご相談し、歴史民俗博物館見学等の企画を立て、同行したことも、参加した留学生たちの顔とともに思い出します。

その後、本学はまさに日本社会のグローバル化を先取りしたかのように、さまざまな国・地域からの多様な背景をもった留学生が学び、出会う場所として今日に至っています。

1999年には留学生支援の会が設立され、さまざまな場面で留学生の勉学と生活を支え、また楽しい機会を作っていただいています。経済的に苦しい留学生にもいろいろご支援いただき、ありがたく感謝しております。

長い教員生活の間には、思いがけない事故や病気で悩む学生も少なからず見てまいりました。それは、個人でできることは限りがあることを痛感する日々でもありました。多くの方々が結集し、ずっと支援を続けて来られた留学生支援の会の活動こそが、地域にあって、真の意味で草の根のグローバリゼーションを体現するものと思います。

今後ともどうぞよろしく願い申し上げます。

2. ご挨拶

私にとっての戦後

会長 中嶋 洋子

第二次大戦後 70 年を迎え、様々な記事や論文、感想などが新聞や雑誌他に数多く掲載されました。

例えば、会報 50 号誌上にも、当会副会長の笹岡

太一さんの読売新聞で紹介された記事が再掲載されています。

それによりますと、1945 年 1 月に徴兵され、陸軍の船舶幹部候補生に配属されました。同年 9 月に部隊に配備される予定が終戦で除隊とのこと。

しかし、考えてみますと、いったん徴兵されたからには当時のこと、死を覚悟したに違いありません。この経験は、後の人生の考え方、生き方に大きく影響したのではないのでしょうか?! 当会副会長としての考え方や行動が毅然としていることに常々圧倒されています。

私自身にも、今でも忘れられない戦後のある物語があるのです。

たしか小学校 1 年生の頃のこと、ある朝、その頃も集団登校をしていました。

すると、上級生の「それなら洋子ちゃんの家じゃない?!」という声が聞こえました。

ある婦人が登校班に声をかけ「白井」という家を探しているというのです。白井というのは当時私が名古屋から疎開して住んでいた母の実家の姓です。私はその時、その女性に道を教え、「自転車屋さんの前の、大きな桜の木が 2 本ある家」と答えたことを今でも鮮明に覚えています。その後はこのことをすっかり忘れ学校へ行きました。

さて、学校から帰り戸を開け中に入ると、いつもと様子が全然違うのです。中がしーんと静まりかえり物音ひとつ聞こえないのです。

子ども心にもなにかあったに違いないと思い、襖の隅をそ一つと小さく開けて中をのぞいてみました。なんと登校時に出会った女性が静かに座り、手にハンカチをもち、泣いているように見えたのです。

母がいきさつを話してくれました。母にはその時既に戦死した弟がいたのですが、従軍看護婦をしていた女性と弟は戦地でいき会い、結婚を約束していたというのです。二人には既に一人の息子を授かっていたとか、知人に頼み彼を東京においてきたとのこと。

その夜、悲しみに打ちひしがれた彼女は息子のいる東京に帰ることになりました。

REPORT

3. 活動報告

私たちにできることは、心を込めて彼女を駅まで送ることだけでした。

当時の鉄道の状況は劣悪でした、本数は極端に少なく、その上、戦後直後のこととて、買い出しなどのため大勢の人たちが汽車を待っていました。彼女はデッキの最後部で、やっと両手でとつてを掴み、列車に乗り込みました。乗り込んだというよりぶら下がるようにしていました。次の駅で一人降りるから中に入れるといった情報が私の耳にも入ってきました。

私は幼いながらこれが彼女と会える最後の機会と感じ、涙が止まりませんでした。(祖父母はその後もしばらく彼女と連絡をとりあっていたようですが、その祖父母も間もなく他界しました。)

私は疎開していた当時の母の実家から東京に戻り、時々、もしかするとこの広い東京のどこかにもう一人従妹がいるのだ、とふと思ったりしました。

これが私の絶大な戦後の思い出です。一生忘れることはないでしょう！

3-1 東京下町文化体験ツアー ～隅田川クルーズ、浅草散策、 江戸東京博物館、ちゃんこ鍋懇親会～

日時 2016年12月6日(日)集合時間11時40分
参加者数 留学生33名、日本人学生11名、幹事12名

隅田川クルーズ

40分弱のクルーズの後、船着き場で集合写真を撮った。浅草散策後の集合場所は混雑の少ない東京クルーズの船着き場近くにした。

浅草散策

仲見世通、浅草寺参拝などグループ別自由行動。

江戸東京博物館

団体は外のチケット売り場で入場券を購入し、外のエスカレーターを使って入場することになっていた。館内を自由行動。去年は改修工事の為、常設の展示は見られなかったが、今年は新しい展示が加わった常設展を見ることが出来た。



ちゃんこ鍋懇親会

ちゃんこ霧島での親睦会の前に、2組に分かれて相撲部屋の見学をした。土俵を見ながら説明を受け、学生からの質問もあり、皆興味深そうだった。この見学があったため、親睦会の開始を例年より30分遅らせ、解散時間も20時30分とした。

(池村幹事記)

東京下町文化体験ツアーの感想 東京下町ツアー体験

日研究生
モウシン(中国)

12月6日に、留学生のみなさんと一緒に留学生支援の会が行った東京下町ツアーに参加しました。まずは日の出桟橋、東京クルーズ乗船場待合室に集合して、グループに分かれました。同じグループの仲間同士はそれぞれに異なる国の出身であることに気が付きました。恐らく、みんなができるかぎり、たくさんの留学生と交流して、様々な友達を作ってほしいと考えてのことでしょう。

集合したときはもう昼ごろなので、支援の会の方たちはワッフルなどのおやつを用意してくれました。昼食を食べずに来て、お腹がペコペコになった私にとって、何よりも美味しいものと思えました。幹事の方たちの親切さが強く感じられました。

12時20分ごろに、皆さんと一緒に水上バスに乗りました。しかし、私の唯一の知り合いの友達ほかのグループに組み入れられていました。私はそんなに外交的な人ではないため、知らない人と話すのは恥ずかしくて、結局一人で寂しく窓の隣の席に座りました。

ちょっと寂しくて、あまりテンションが上がりませんでしたので、隅田川沿いの風景を眺めることなく、ただ携帯を弄っていました。そんな時、支援の会の一人の幹事が私のことに気が付いて、傍に座ってくれて、話かけてくれました。また、離れた時も、甘い飴をくださいました。あの一瞬は本当に涙が出るほど感動でした。その優しい方の姿は今でも忘れられません。

そして、気持ちも一変に変わって、水上バスから、隅田川沿いの風景を眺めると、いつも見た景色と違っ

て、非常に素晴らしかったです。白い雲が青い川に映って、川が太陽の光に照らされて、まるで金色の鯉が飛びあがっているようでした。川がゆっくりながれている景色をみて、心も落ち着きました。

水上バスから降りて、浅草寺、雷門など、浅草を散策しました。浅草寺は相変わらず、観光客がいっぱいで、とても賑やかでした。雷門から浅草寺に行くには、「仲見世通」という名の商店街を経由することになっていて、その道端には記念品やお土産の店がたくさん並んでいます。どちらの店に入っても、買い物の欲望が抑えられなくなります。私は浮世絵を写した葉書を7枚買いました。国の友達に送ったら、さぞ喜ばれるでしょう。

そのうえ、浅草寺のまわりにおいしいそうな温かいおやつを売っていて、一つずつ食べても、すぐお腹がいっぱいになります。一番おいしいのはやはり人形焼だと思います。

浅草を散策した後、江戸東京博物館を見学しました。非常に大きい博物館でした。その中に各時期を代表する日本の家の様式が見られます。外見だけでなく、内装もちゃんと整ってまるで誰か中に住んでいるようでした。傍にいる日本人の人々はよく懐かしいといっていました。

最後は一番期待している「ちゃんこ鍋」の出番です。初めて「ちゃんこ鍋」を食べる私は、そんな大きな鍋をみて、本当に驚きました。ほかの留学生のみなさんも「お相撲さんがよく食べるな、すごいな」と感慨しました。鍋に豊富な食材を入れて、味がよく、みなで囲んで食べることは極めて楽しかったです。留学生支援の会のおかげで、楽しい一日を過ごしました。今後も留学生支援の会が行う活動にぜひ参加したいと思います。



隅田川クルーズの船の中



相撲部屋で稽古場見学

東京下町文化体験ツアーの感想 浅草下町ツアーに参加して

大学院総合国際学研究科
国際社会専攻博士後期課程
山西弘朗

留学生支援の会が主催する文化ツアーに参加したのは、今年6月に国立劇場で歌舞伎を鑑賞する活動に参加したのに続いて二度目でした。今回の東京下町文化体験ツアーで一番目を引いたのは、隅田川クルーズと相撲部屋見学でした。

東京でこれまで何度も地下鉄や電車にりましたが、川から東京を眺めたことは一度もなかったので、ぜひとも船に乗って東京の姿をながめてみたいと思いました。

浜松町から浅草まで、いくつかの橋を下から眺めながら、日頃は高層ビルに目を奪われて目に入っていなかった、歴史を感じる昔ながらの建物群が次々に目に飛び込んできました。浅草に近づくにつれ、先ほどの町並みとは対照的なスカイツリーやユニークな形の巨大オブジェが乗ったビルが目の前に広がりました。

私と同じグループになった留学生は一人を除いて初対面だったので、浅草寺の仲見世をのんびり見ながら、留学生といろいろと話すなかで、異なった国や背景の外国人が、この大学で学んでいることを改めて痛感しました。

このあと、江戸東京博物館を観覧し、いよいよ相撲部屋へ。人生ではじめて相撲部屋に入り、力士たちが

毎日稽古する土俵を、親方が見守る目線から拝見しました。力士たちは地方巡業で不在でしたが、土俵とそこに漂う切り詰めた雰囲気だけで、こちらも背筋が伸びる思いがしました。そして最後に、本場のちゃんこをみんなで味わいました。

今回、特によかったのは、ちゃんこを囲みながら、参加した留学生と日本人、さらに支援の会のメンバーの方まで全員が一人ずつ自己紹介できたことです。

日頃、顔を合わして会釈する程度の留学生の自己紹介を聞くことができたので、彼らと今後大学で出会ったら、こちらから声をかけられると思いました。また、留学生支援の会のメンバーの方々からメンバーになった経緯や温かい思いを直接聞くことができ本当に良かったです。やはり、このような活動は支援の会の方々の熱意があるからこそ実現できているのだと感じました。

今後も、留学生と留学生支援の会がこれまで以上に交流を深め、お互いがかげがえのない出会いと喜びを分かち合えるよう、日本人学生としてできるかぎり協力していきたいと思いました。ありがとうございました。



↑ みなさんお楽しみのちゃんこ鍋 ↓



3-2 2015 年度国際交流事業を開催！ 「日本文化交流会」と「留学生交流の夕べ」 ——留学生友好交流のために——

日時 2015 年 12 月 11 日(金) 13:00~20:00
会場 大学会館と国際交流会館交流ホール

留学生にとって毎年楽しみの、大学・支援の会・学生後援会共催の国際交流事業が、2015 年 12 月 11 日(金)午後 1 時から 8 時まで、大学会館と国際交流会館交流ホールで開催されました。

第一部の「日本文化交流会」では、恒例のごとく、「着物体験教室」、「華道教室」、「茶道教室」、「囲碁・将棋教室」、「折り紙・和紙人形・墨絵教室」の五つの体験教室をオープンしました。留学生たちは、授業の合間をぬって自分の興味のあるそれぞれの教室に参加しました。

着物はやはり一番人気があり、着物姿でお抹茶を喫し、写真を撮りあっている姿は、日本人より日本人らしく見えました。

生け花、墨絵、和紙人形など自分の作品を作り上げ互いに鑑賞しあいながら、すばらしい！と歓声をあげていました。

留学生達は初めて体験するいろいろな日本文化を楽しみながら、日本への理解を深め、日本をより身近に感じるようになったことと思います。それぞれの先生方には感謝いたします。

第二部の留学生の交流・友好を広げる場である懇談会「国際交流の夕べ」には、日頃留学生を支援、協力いただいている来賓の奨学財団、地域の交流団体の方々、大学関係者と留学生、日本人学生、総勢 300 名ほどが参加し、互いに交流を楽しみました。

留学生の司会による後半では、ブラジル、中国の留学生による歌や踊り、「支援の会」演出の TUFs 歌舞伎劇場「武道大会決勝戦一刀対長刀」と福引、インドの留学生によるダンスと歌等で盛り上がりしました。

最後の The Kusumoto Band2015 による演奏は、2015 年の終わりを締めくくるにふさわしく、参加者全員を一つにし、来る年が留学生と日本人の交流の活性化を期待出来る交流会となりました。

第1部 13 時 ~ 17 時 日本文化交流

参加者 170 人

- ① 着物の着付け
(国際交流会館二号館交流ホール)参加者 50 人
- ② 華道(学生会館集会室 B)参加者 35 人
- ③ 茶道(学生会館和室)参加者 40 人
- ④ 日本の伝統的遊び
(学生会館大集会室)参加者 50 人
- ⑤ 囲碁(学生会館集会室 A)参加者 10 人

第2部 18 時 ~ 20 時 国際交流の夕べ(懇親会)
学生会館1階ホール 参加者 300 人(留学生 200 人、日本人学生 50 人、来賓、大学関係者 50 人)

所感;今年度も広い方のホールがメイン会場になっていたの、パフォーマンスも見やすく、全体に一体感が感じられて良かったとの声が多くありました。

パフォーマンスの中でも「支援の会」演出による歌舞伎劇場「武道大会決勝戦一刀対長刀」は、参加留学生の熱心な練習と笹岡さんの熱心な指導のおかげで、昨年以上に上手に演じて、会場から大喝采を浴びました。演じた留学生も達成感を感じた様で、大満足の様子でした。

福引きも、今年度は外大生協に協力してもらい、賞品として食堂や売店で利用できる生協のクーポン券と、支援の会の名前入りのボールペンをあげることにしたのが、好評でした。

来年度も新企画を提供できるといいと思います。

(梅田幹事記)





↑ 国際交流事業第1部 日本文化交流 華堂教室

↓ 国際交流事業第2部 国際交流の夕べ 歌舞伎劇場



3-4 小中学校の国際理解教育の授業に 留学生を派遣

会報の前号発行後にも府中市の小学校、中学校で30人近くの留学生が自国紹介の授業に参加して、子供たちとの交流を楽しみました。皆、目を輝かせて話を聞き、授業の後の質問タイムにはたくさんの手が挙がり、日本との違いに興味を示しました。

給食も一緒に食べた学校もあり、別れるときは互いに名残り惜しい思いをしたようです。子供の中には、世界のいろいろな国に興味をわいて、世界のことが学べる外国語大学に行きたいと言う子供も出て来ました。

また、学校によっては、子供たちの発案で日本のことを知ってもらいたいと準備をして、歓迎の歌や踊りで留学生達を歓迎する学校もありました。参加した留学生たちはまた機会があれば是非行きたいと申し出てくれます。以下は参加した留学生の報告と授業の時の写真です。

(梅田幹事記)

府中市立若松小学校を訪問

外語祭真っ只中の11月下旬、6名の留学生(ガーナ、ウズベキスタン、インドネシア、ブラジル、アメリカ、ロシア)と府中市立若松小学校を訪問しました。

前任校で、本校の留学生との交流授業を経験された先生の、強いご希望で実現した6年生との交流会でした。

大学前から循環バスで約10分、小学校の最寄りのバス停留所まで、先生と実行委員が迎えに来てくれました。

最初に体育館に案内され歓迎行事がありました。校長先生のご挨拶に続き、生徒さん達による組体操、和太鼓演奏、よさこいソーラン節を鑑賞。

その後、留学生は2名ずつ3クラスに分かれ、パワーポイントを使用するなどして、自国の紹介を行いました。残り時間でこま遊び、けん玉など日本の遊びを体験し、時間はあっという間に過ぎました。

初めての留学生の訪問を、生徒さん達はとても楽しみにしてくれていた様子で、心のこもったおもてなしを受けました。先生は、今後もこのような交流会が継続出来ればと仰っていました。

(利光幹事記)



若松小学校を訪問

武蔵台小学校での交流

——元気いっぱいもらった！

ISEP

陳少潔 (中国)

1月19日、いい天候に恵まれて、私たち留学生は武蔵台小学校で3年生の子供たちと交流を行った。かわいくて元気な子供の顔がとても印象深い。

交流の会場に入ると、子供たちが熱い拍手で私たちを歓迎して、始まりの挨拶をしっかりしてくれた。すごいと感心した。

交流が始まる前に、子供たちが私たちのために校歌を一斉に歌った。「わたしたちは まなぶ/わたしたちは かんがえる…」揃った声ははっきりしていて、私たち留学生にとってもとても聞き取りやすい。少し長い歌詞だが、ちゃんと最後まで歌った子供の無邪気な顔を見て、「なんとたくましい！」と思わざるを得なかった。

いよいよ交流が始まった。最初は私たちが各自の国についての紹介で、子供たちが積極的に質問を出したり、質問に答えたりしてくれた。



ウズベキスタンの紹介

特にウズベキスタンとシリアの場所を地図で正しく指したことにびっくりした。小三だからまだ地理は勉強していないはずなのに、こんなに地理に詳しいのはやはり趣味があって自ら勉強しているに違いない。

私の発表の時、子供たちが一発で私が中国人だと当てた。原因を聞くと、「日本人に似ているから」という答えが出て、嬉しかった。中国について何か知っていると聞いたなら「PM2.5」が出て、意外だった。でも、子供たちもニュースを見ているのねと感心した。

小さい時からいろいろ知っておいて、視野が広がっていくことが非常に大事だと思う。発表の中で、きれいな街の写真を見て「きれい！」と騒いだり、食べ物の写

真を見て「食べたい！」と騒いだり、真面目に聞きながら積極的に反応してくれた子供たちがとてもすてきに見える。

発表後、グループを作って、私たちは子供たちと一緒に日本の遊びを体験した。私は「福笑い」と「坊主めくり」をした。最初何も分からなかったのも、子供たちに説明してもらった。

福笑いではたくさん変な顔が出て、みなさんを喜ばせた。「坊主めくり」で私はいつも坊主が出て、悔しかった。終わったとき、私は僅か 2 枚の札を持っていたが、1 枚もなかった子供がいた。罰ゲームとして、「の」の字を体を動かして書いた。すごく楽しかった。

遊びが終わって、私は年を聞かれて、「何歳だと思う？」と聞いたら 18 とか 20 とか答えたが、指で「25」と伝えたら、「52 だ」とばかり言って、私は苦笑するしかなかった。

昼ごろ、子供たちと一緒に給食を食べて、好きな食べ物や誕生日の話などいろいろ話合っていた。食べ終わったとき、協力しながら片付けている子供の姿を見て、「なんと頼もしい！」と感動しながら、日本の教育のいいところだと確信した。

短い時間だが、子供との楽しい交流を経て私は元気になって、晴れている空がより一層きれいに見えてきた。



子供たちと福笑いを楽しむ

ご入会、ご寄付
ご協力いただき、ありがとうございます

ACTIVITIES

4. これからの活動

3月30日(水)

古都鎌倉見学ツアー

日時 3月30日(水)
募集人数 留学生30名、日本人学生10名
コース 新宿駅西口集合ーバスで鎌倉へー
円覚寺ー鶴岡八幡宮ー由比ヶ浜(昼食)
ー長谷寺ー鎌倉大仏ーバスで新宿へ
※コースは変更する場合があります。人数に制限があり、留学生と付き添い幹事のみでの参加とさせていただきます。ご了承ください。



幹事会

下記のとおり幹事会を開催しました。

平成28年1月17日(日)

平成28年2月6日(土)

平成28年4月2日(土)[予定]

お問い合わせ先

〒183-8534 東京都府中市朝日町3-11-1
東京外国語大学 留学生課気付(梅田、谷川)
TEL: 042-330-5183 / 5759
FAX: 042-330-5189
<http://www.facebook.com/tufs.issa2>

©Copyright 2015, TUFUS International Student Support Associati

新規加入者

■一般会員(平成27年11月6日~28年1月31日)

吉田ゆり子 (敬称略)

会員寄付者

■一般寄付(平成27年11月6日~28年2月1日)

伊藤裕明、小野美登里、北村みどり、佐久間美知、
中村宏、菱川和男、宮井捷二、村上光一、横石邦彦、
安藤浩行 (敬称略)

※万一お名前に間違いがありましたらお詫びいたします。その節は、当会までお知らせくだされば幸いです。印刷できない外字等、ご了承ください。

1月31日現在
会員数: 991名

すべての活動は、皆様の年会費とご寄付で行われております。本年度会費を同封の振込用紙にてお振込みくださいます様、お願い申し上げます。

一般会員: 年会費 3,000円

協賛会員: 年会費 20,000円

♪ 年度末までのお願いです ♪

平成27年度 会費納入のお願い
3月31日(木)まで受付

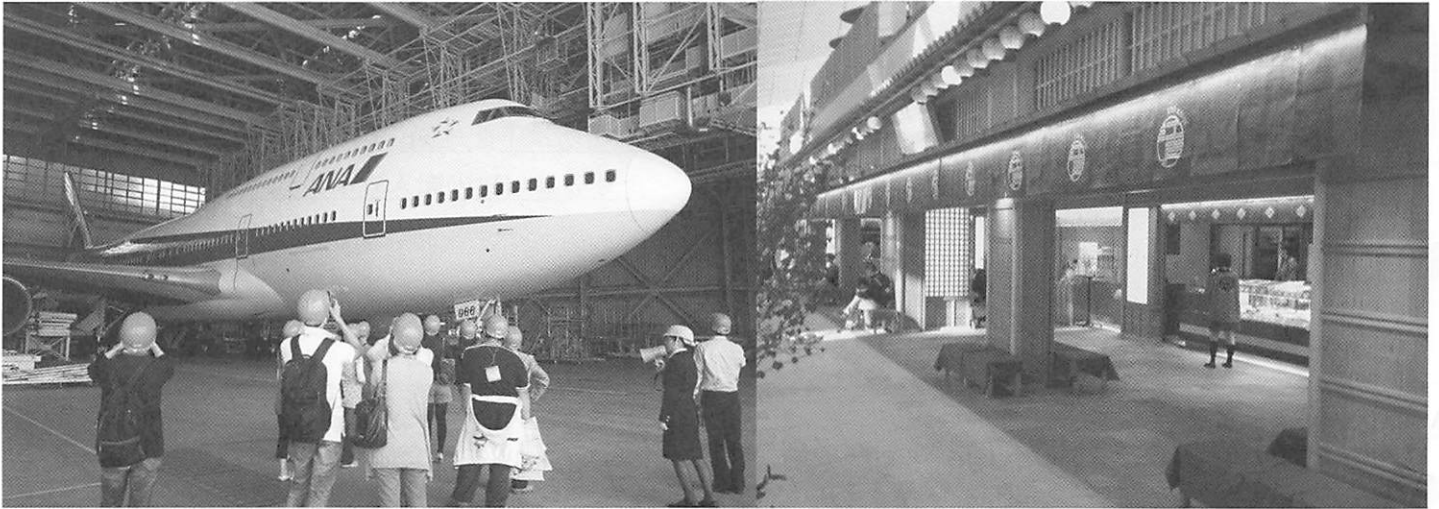
来年度の活動をご支援いただくためにも、是非会費納入継続をお願い申し上げます。

納入をお忘れの方、納入率アップに是非ご協力下さい。本年度会費を同封の振込用紙にてお振込下さいます様、お願い申し上げます。

3月15日(火)

社会工場見学 羽田空港 & ANA 整備工場

～ 日本と世界の新しい架け橋 ～



◆ 日時 3月15日(火曜日)

- 9:00 外大(モニュメント前)集合
- 10:30 羽田空港国際線ターミナル 到着
希望者は、直接現地に集合することも可能(事前にお知らせください)
- 11:00 HANEDA POP TOWN (遊ぶ、買う、食べる)
⇒ 羽田に出現した日本の伝統の数々
⇒ 展望デッキ(滑走路、遥か彼方の遠景展望可)
- ・ ・ ・ 昼食 (好きなものを選んで食べられます) ・ ・ ・
- 14:30 空港出発
- 15:00～16:30 ANA 機体整備工場見学
- 18:30 外大で解散 希望者は現地解散可(事前にお知らせください)

◆ 申込受付

- ・参加者数 : 留学生 30人 日本人学生 10人
- ・参加費 : 500円
- ・受付開始 : 2月3日(水)
(国際交流会館2号館1階 留学生支援の会事務室)

◆ 連絡先

東京外国語大学 留学生支援の会

090-3341-6229

※当日撮影した写真を会報に掲載することがありますので、あらかじめご承知ください

春期バザー開催のお知らせとバザー用品ご寄付のお願い

開催: 4月6日(水)~4月7日(木) 場所: 国際交流会館 2号館交流ホール

留学生に毎回大好評の春期(4月期)バザーの開催に向けて、送付受付期日をご確認の上、バザー用品のご準備、ご手配をお願いを申し上げます。

■4月2日(土)は午前10時より直接搬入も可能です。
その際は 080-3080-3007(中嶋)までご連絡ください。
搬入場所は下記地図の国際交流会館になります。
<4月3日(日)の搬入は不可。>

バザー用品受付期間

3月30日(水)~4月5日(火)

お送りいただきたい物品

■各種辞書類、コミックなど

■台所用品(小型の鍋、フライパン、電気炊飯器、レンジ、トースターなど)

■日常生活用品(自転車、鏡、タオル、毛布、布団、食器、衣類、電気製品(一人で持ち運び可能なもの)、保存のきく食品など)

※一人で持ち運びが不可能な大型電気製品については、電話で 042-330-5183(梅田 火・水・金のみ)まで事前にご連絡をお願いします。

※衣類や布ものは、新品同様またクリーニング済のもの、できれば若い学生向けの春・夏物を希望します。

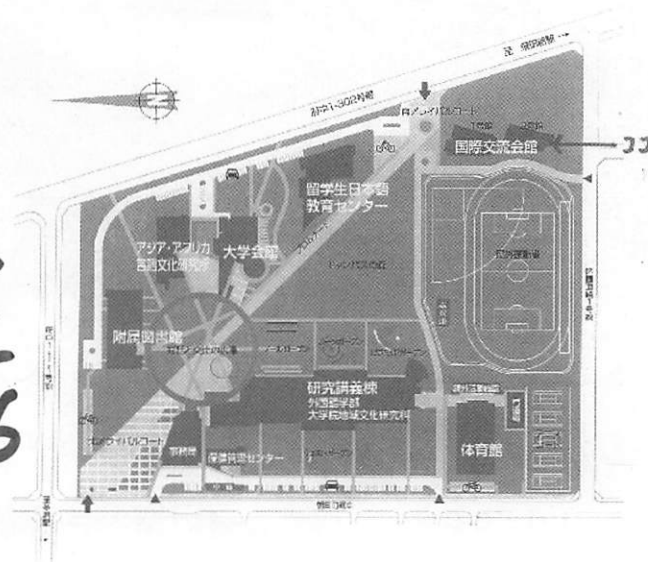
■国際交流事業の一環としての「着物・着付け」用男性羽織・袴一式、振袖、帯など

※古着可、ただし使用可能なもの

送付先 東京外国語大学留学生課気付
東京外国語大学留学生支援の会
〒183-8534 東京都府中市朝日町 3-11-1
TEL:042-330-5183

送料 宅配便等で品物をお送りいただく場合には、恐れ入りますが、送料のご負担をお願いいたします。
お手数ですが「午後便」をご指定下さい。

バザー 4/5-6



JOIN FOR BAZAAR!

お願い バザーの人手が足りません!ご協力を!
バザー用品の物品仕分けや、準備・後片付けをする
人手のご協力をお待ちします。

※お問い合わせ、当日のお手伝い・参加可能な方のお申し出は下記までお電話下さい。

TEL:042-330-5183 (火、水、金のみ、梅田まで)

10:00~

(10:00以降)

WE NEED YOUR HELP!